



農業支援サービスの 普及に向けた 分析レポート (耕種)

令和5年3月

農林水産省大臣官房統計部統計データ分析支援チーム
(農業支援サービス関連提案ユニット)

農業支援サービスについて

- 農林水産省は、生産現場における人手不足や生産性向上等の課題に対応し、農業者が営農活動の外部委託など様々なサービスを活用することで経営の継続や効率化を図ることができるよう、「農業支援サービス」の定着を促進している。
- 農業支援サービスとは、不特定の農業者等に対して対価を得てサービスを提供することをいい、ドローン散布等の作業受託やデータ分析、農業機械のシェアリング、農業現場への人材供給等がある。
- これまで農林水産省では、農業者等が各種農業支援サービスを比較・選択できる環境の整備に向け、農業支援サービスの概要や対象地域・品目、サービスを利用する際にかかる料金等サービス提供事業者が表示すべき情報等の指針として「農業支援サービス提供者が提供する情報の表示の共通化に関するガイドライン」を策定するなど、普及対策に取り組んできた。

目次

1. 分析の概要

分析の目的や方針、使用したデータ等

2. 利用者グループの特徴

I ～ IVのグループ別にみた回答者の特徴

3. サービスの特徴

I ～ IVのグループ別にみたサービス利用状況の特徴

4. アプローチ

ターゲットごとに適したアプローチの考え方

5. まとめ

分析のまとめ



1. 分析の概要

1. 分析の概要

分析の目的

- 耕種(*)における、農業支援サービスの現在の利用状況や、今後の利用意向を明らかにする。
- 耕種(*)における、農業支援サービスの普及を進める対策検討のための示唆を得るとともに、農業支援サービスの提供事業者にとっても役に立つ知見を示す。

*耕種とは、令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の問1（過去1年間の販売金額が1位の部門）における水田作・畑作・露地野菜・施設野菜・果樹・その他作物（花きなど）の6部門を指す。

使用したデータ

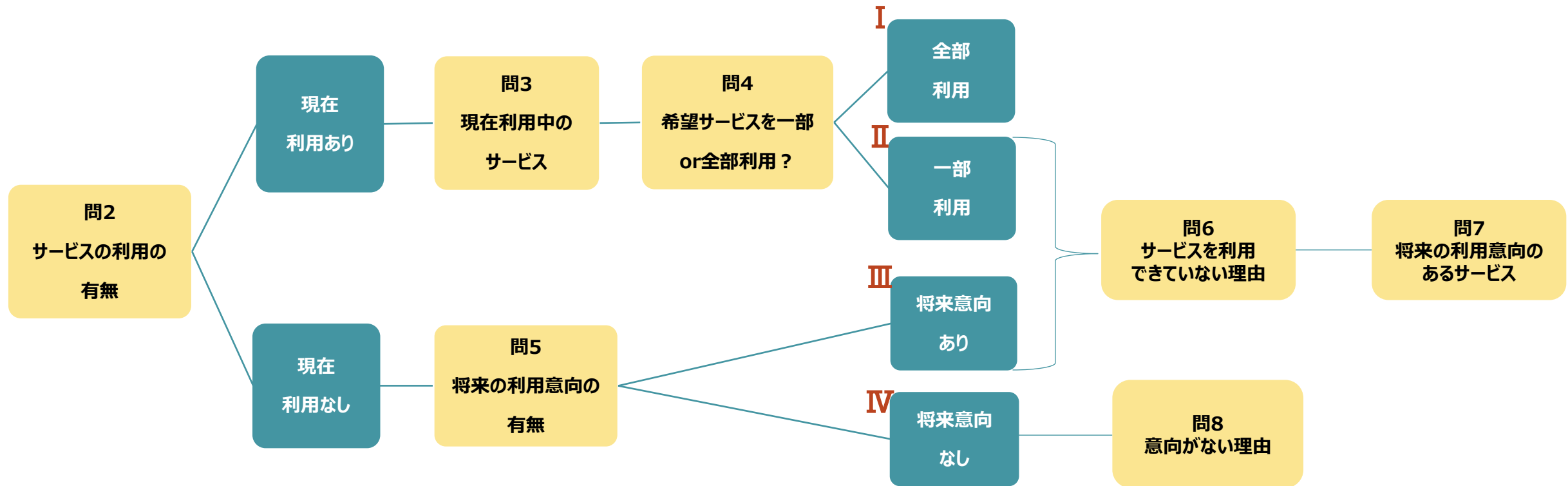
- [令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査](#)

令和4年8月上旬～9月上旬に実施されたアンケート調査。
2020年農林業センサス結果を基に選ばれた、認定農業者等
がいる個人経営体の世帯主及び団体経営体の代表者である農
業者 10,793 人から回答を得た。

- 2020年農林業センサス農林業経営体調査

分析方針

- 令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の質問項目の概観は以下のとおり（問1は過去1年間の販売金額1位の部門についての質問）。
- 回答状況により回答者をⅠ～Ⅳの4グループに分け、グループごとの特徴を明らかにするとともに、サービス普及に向けた対策をそれぞれ考察する。



グループⅠ～Ⅳの位置づけ

	現在の 利用状況	将来の 利用意向	グループの説明
Ⅰ	○ (全部利用)	— ※回答非対象	現在希望する全ての農業支援サービスを利用していると回答したグループ。
Ⅱ	△ (一部利用)	○	現在希望する一部の農業支援サービスは既に利用しており、かつ、今後も農業支援サービスの利用を希望していると回答したグループ。
Ⅲ	×	○	現在農業支援サービスは利用していないが、今後の農業支援サービスの利用を希望していると回答したグループ。
Ⅳ	×	×	現在農業支援サービスは利用しておらず、今後の農業支援サービスの利用も希望していないと回答したグループ。

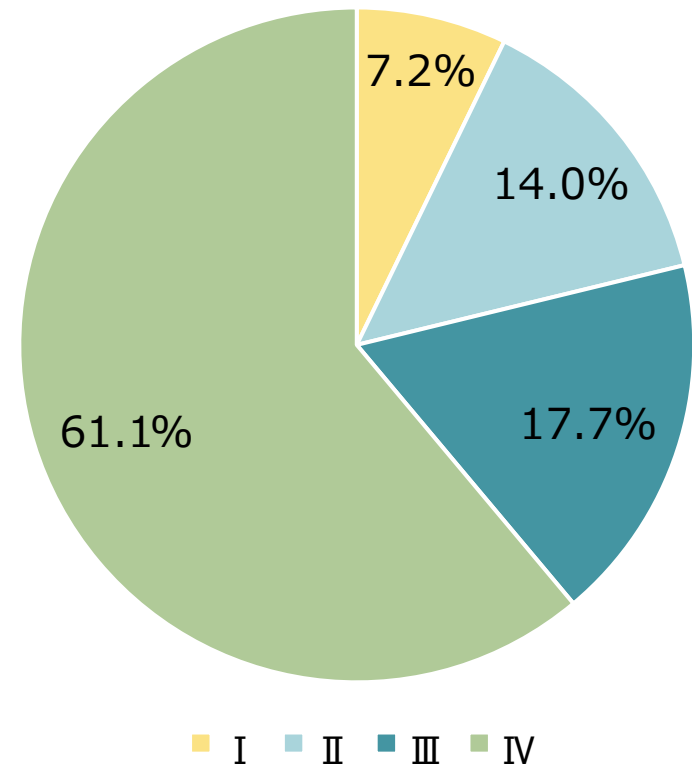
The background features several large, overlapping geometric shapes, primarily diamonds and triangles, in teal, yellow, and green colors. These shapes are positioned in the corners and along the edges of the slide, creating a modern, abstract design.

2. 利用者グループの特徴

2.利用者グループの特徴（Ⅰ～Ⅳの構成割合）

- 耕種全体における、Ⅰ～Ⅳの構成割合は右図のとおり。
- グループⅣが最も多く、全体の約60%を占める。
- 次いで、グループⅡ・Ⅲを併せて全体の約30%を占める。
- グループⅠは全体の1割以下程度。

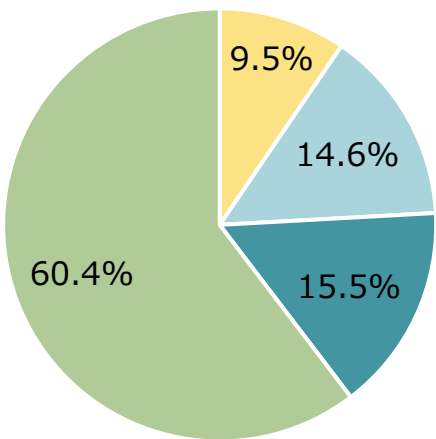
耕種全体（9,480人）における構成割合
※無回答者除く（以下同じ）



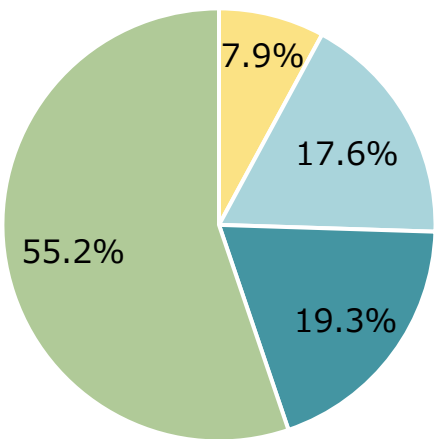
2. 利用者グループの特徴（Ⅰ～Ⅳの構成割合）：部門別（※）



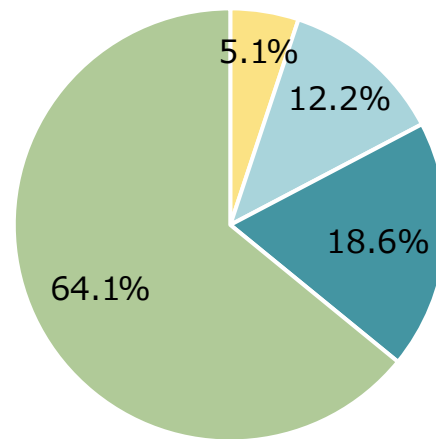
【水田作（4,350人）】



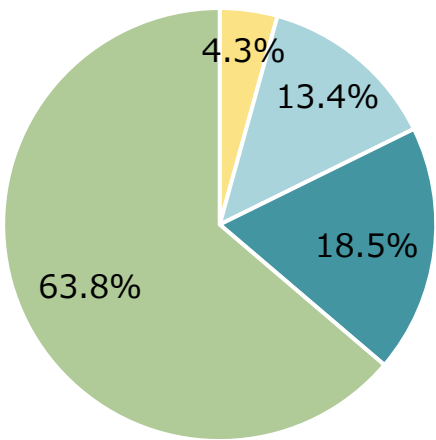
【畑作（850人）】



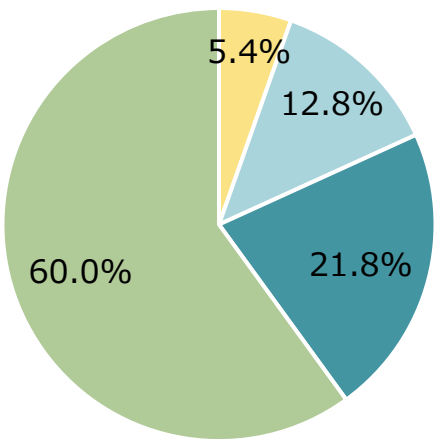
【露地栽培（1,192人）】



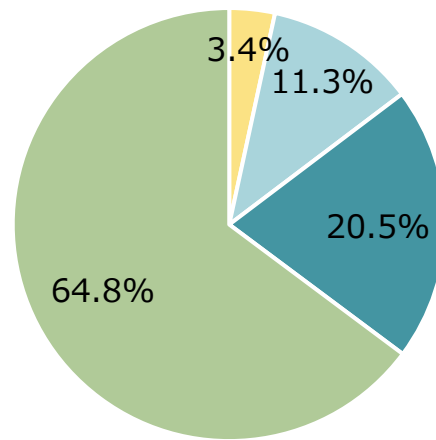
【施設野菜（1,361人）】



【果樹（1,087人）】



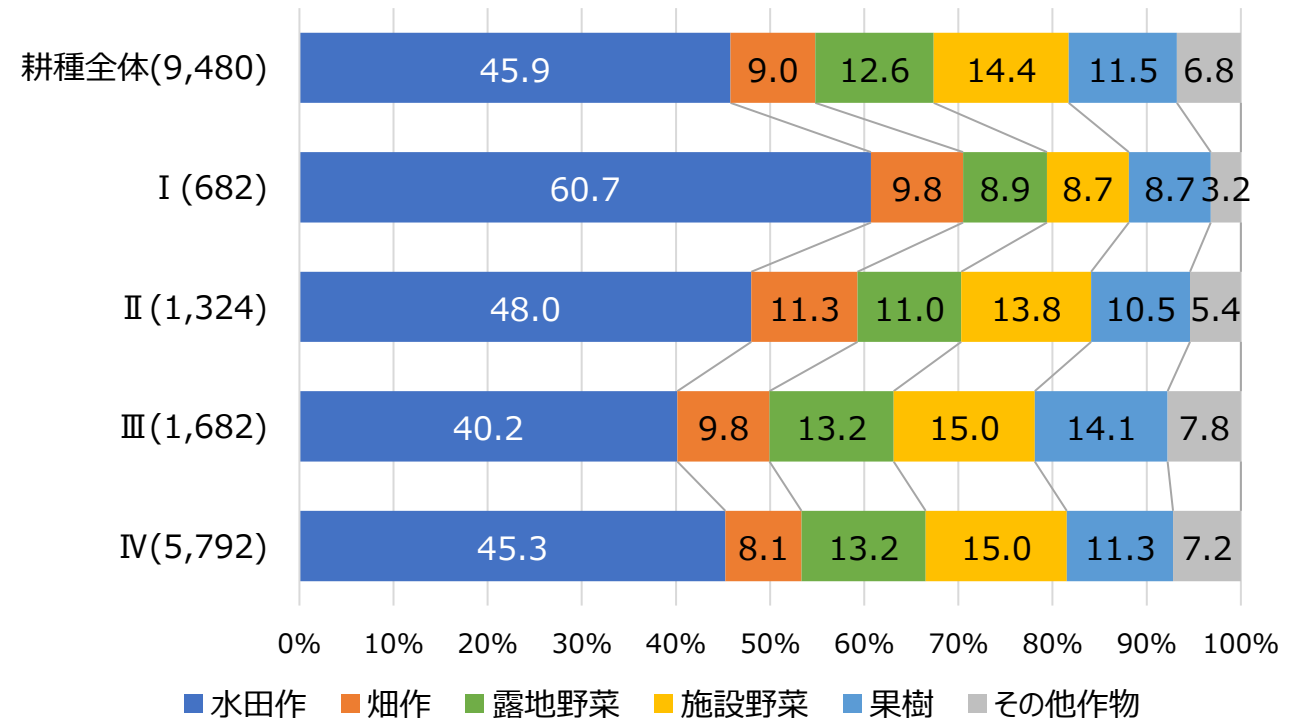
【その他作物（640人）】



※部門別の区分は、「令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査」の問1の回答状況（水田作・畑作・露地野菜・施設野菜・果樹・その他作物（花きなど））により区分した（以下同じ）。

2. 利用者グループの特徴 -部門別-

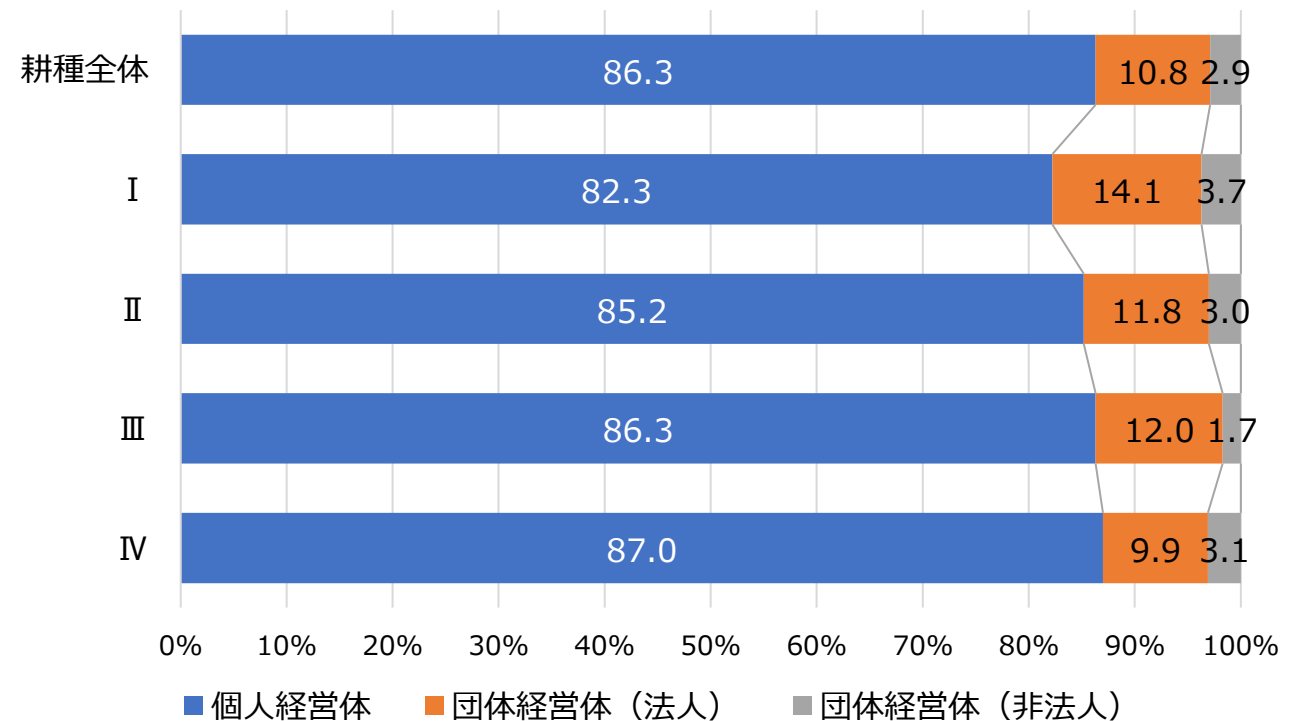
- 耕種全体における、グループⅠ～Ⅳごとの部門別の構成割合は右図のとおり。
- 耕種全体としては、全体の約46%を水田作の経営体が占めている。
- グループⅠ～Ⅳの全てに共通して、水田作の割合が最も多く、40%以上を占めている。
- 特にグループⅠにおいては、水田作の経営体が60%を超えており、他のグループよりも高い傾向がうかがえる。



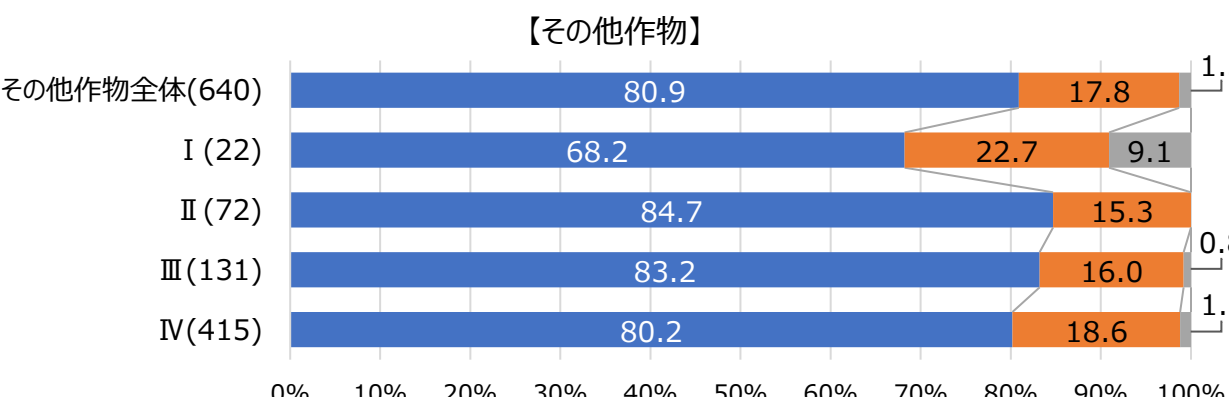
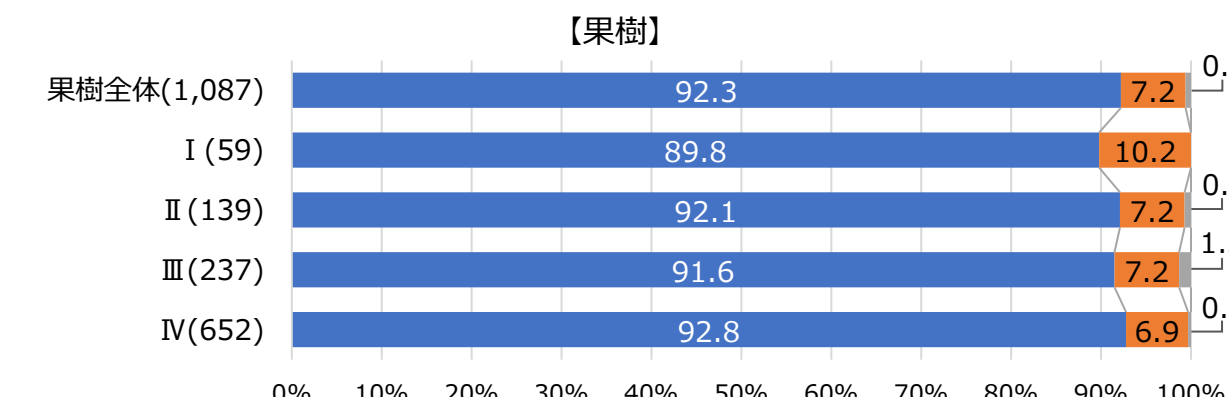
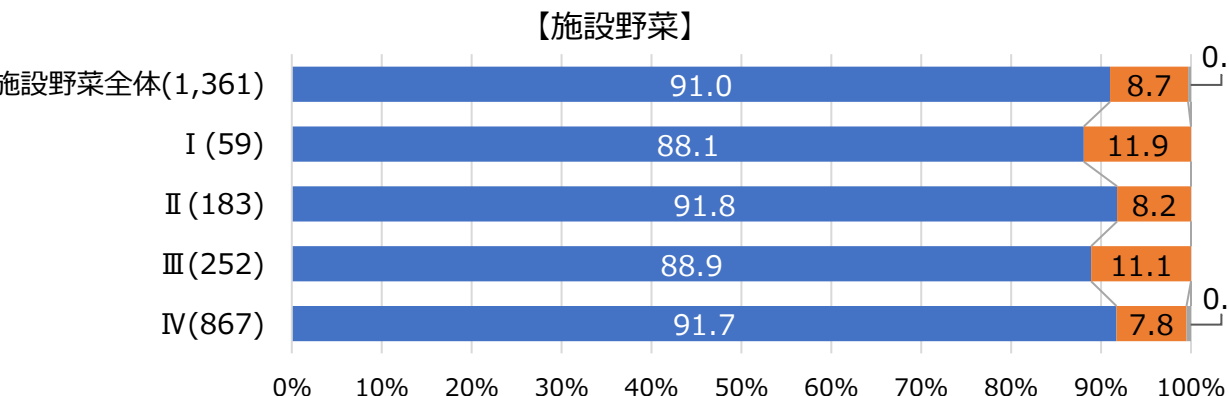
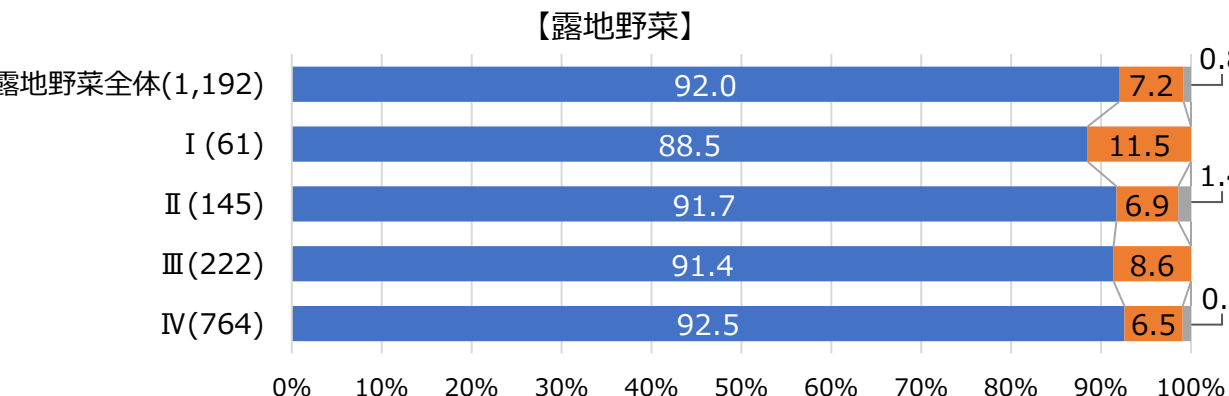
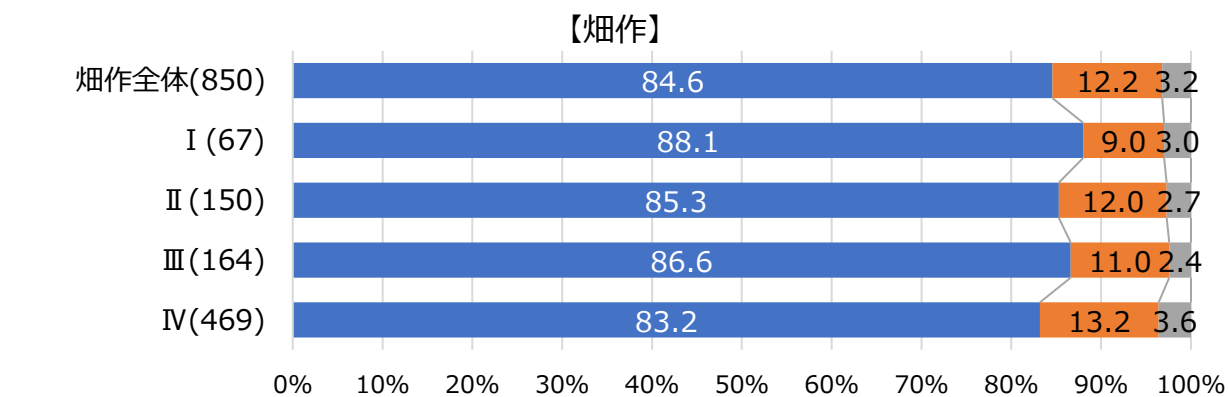
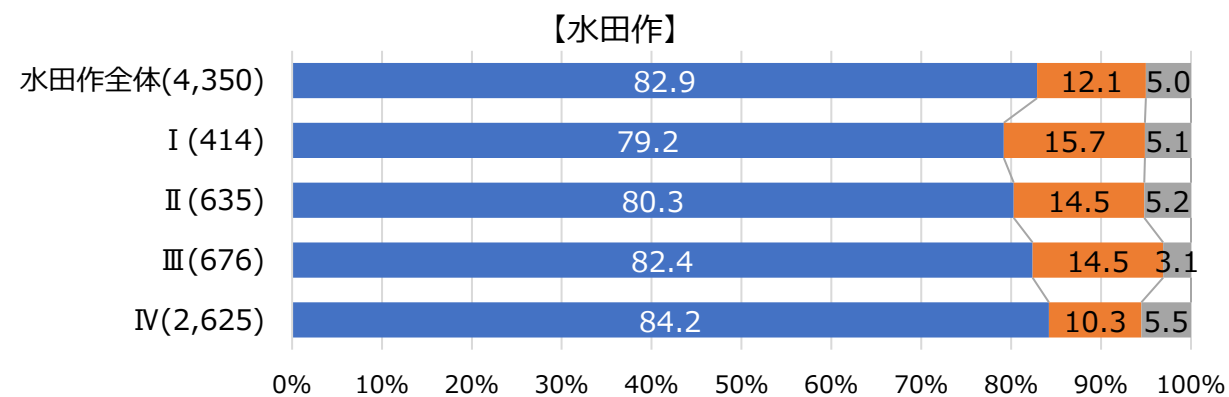
※ () 内の数字は耕種全体及びⅠ～Ⅳの回答数を示す (p.11,13,15,17,19においては記載を省略)。

2. 利用者グループの特徴 -経営体別-

- 耕種全体における、グループ I ～ IV ごとの経営体別の構成割合は右図のとおり。
- 耕種全体としては、全体の約86%が個人経営体となっている。
- グループ I ～ IV の全てに共通して、個人経営体が80%以上を占めている。
- 団体経営体の構成割合については、グループ I が他のグループよりもやや高く、II からIVにかけてその割合が徐々に低下している。



2. 利用者グループの特徴 -経営体別-：部門別



※（ ）内の数字は各部門の全体及び I ～ IV の回答数を示す（p.14,16,18,20においては記載を省略）。

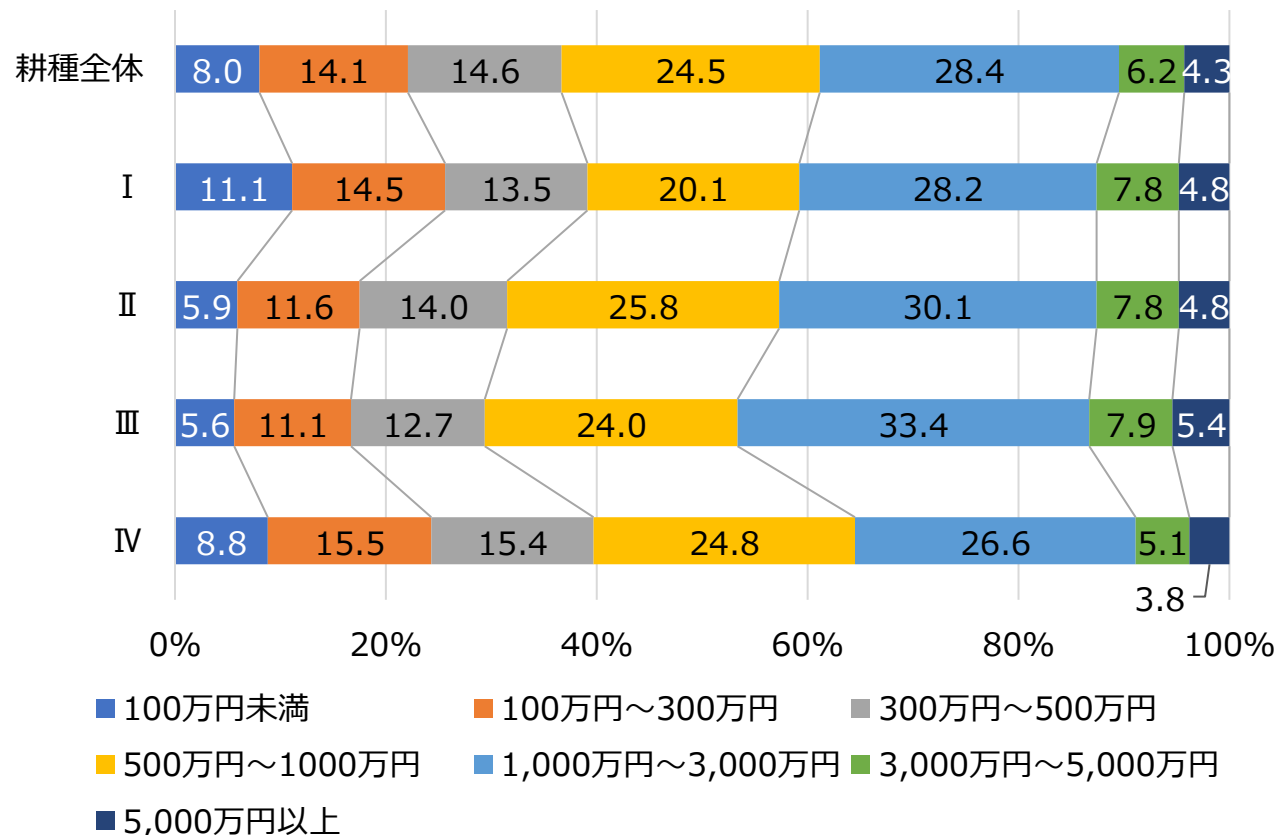
2. 利用者グループの特徴

-販売金額規模別-

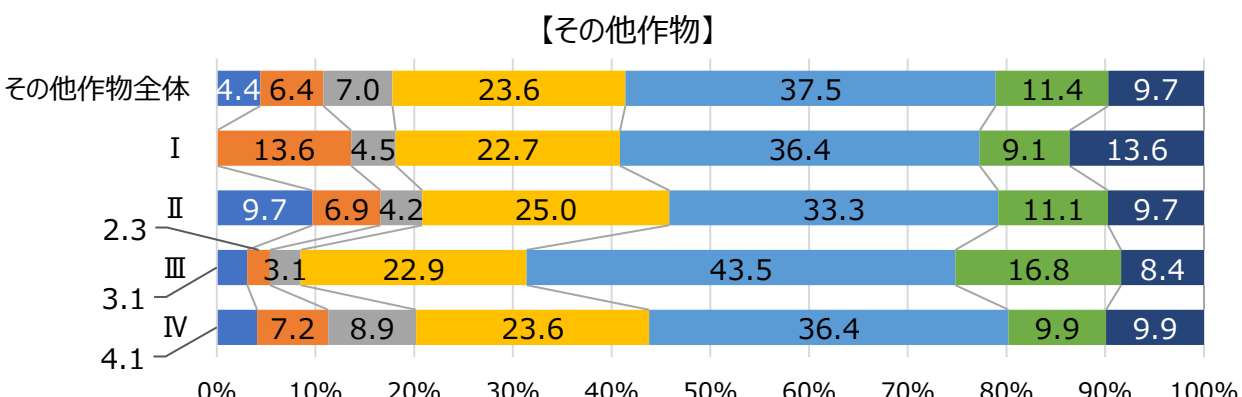
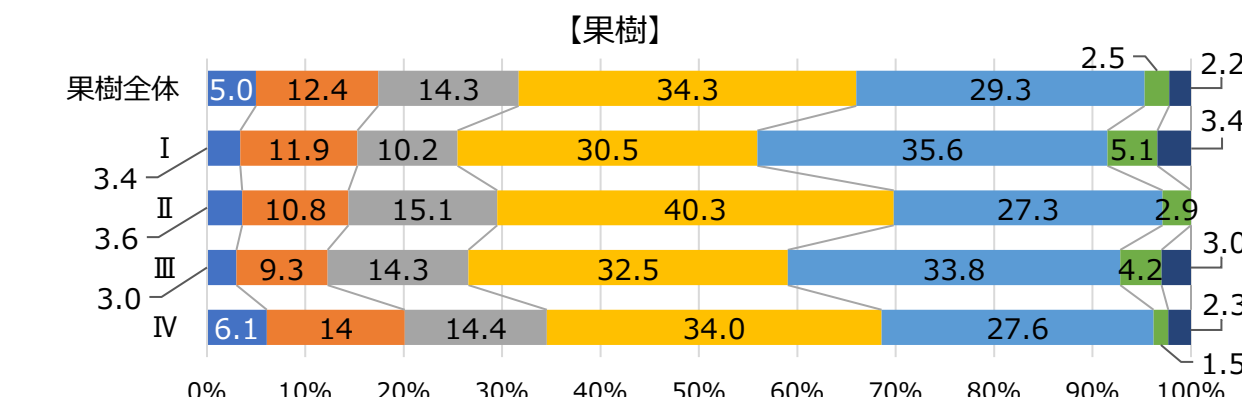
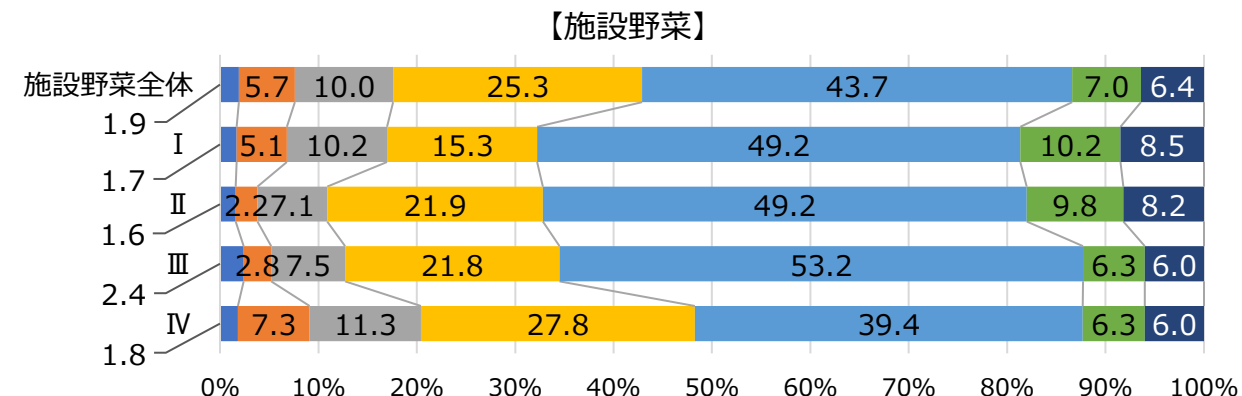
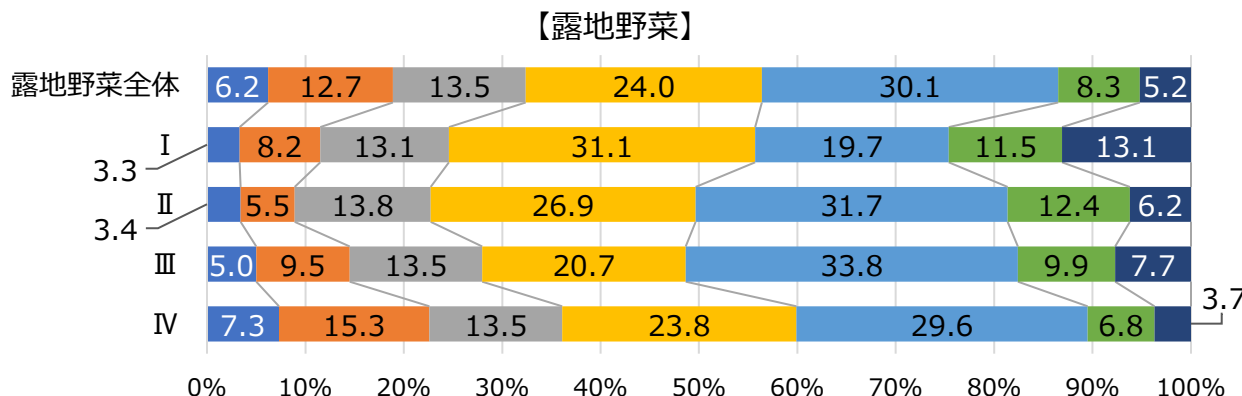
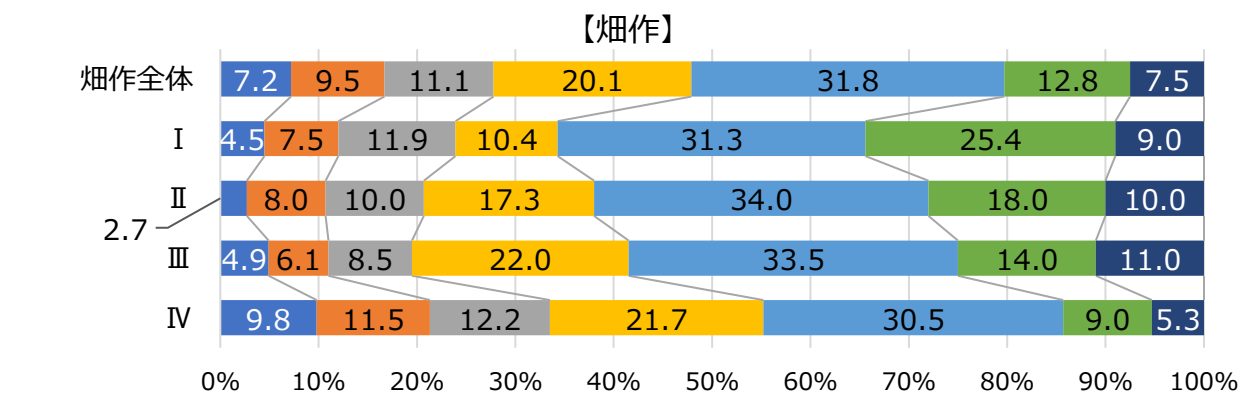
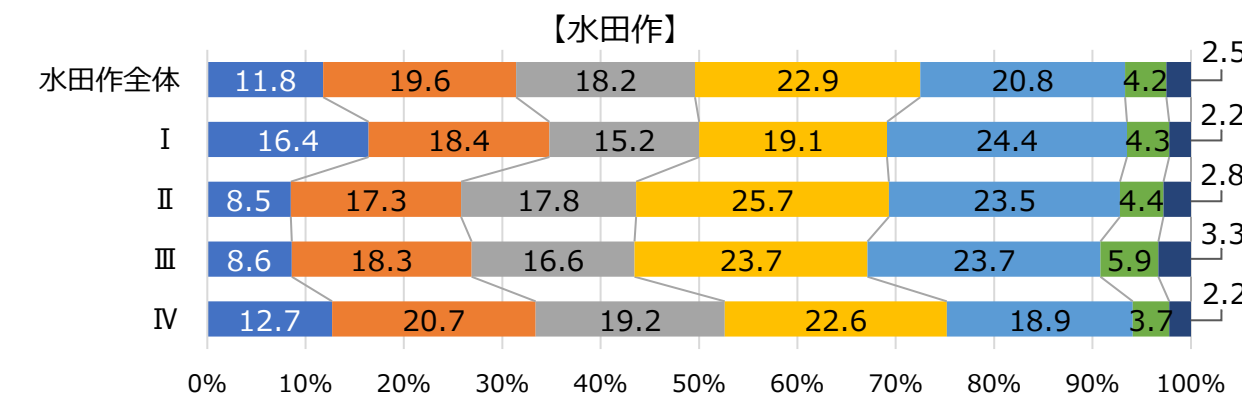
■耕種全体における、グループⅠ～Ⅳごとの販売金額規模別の構成割合は右図のとおり。

■耕種全体としては、販売金額500万円未満の割合が約4割、500万円以上が約6割となっている。

■グループⅡ・Ⅲは、グループⅠ・Ⅳと比較して、販売金額500万円未満の割合が10ポイントほど低く、構成割合は約30%となっている。

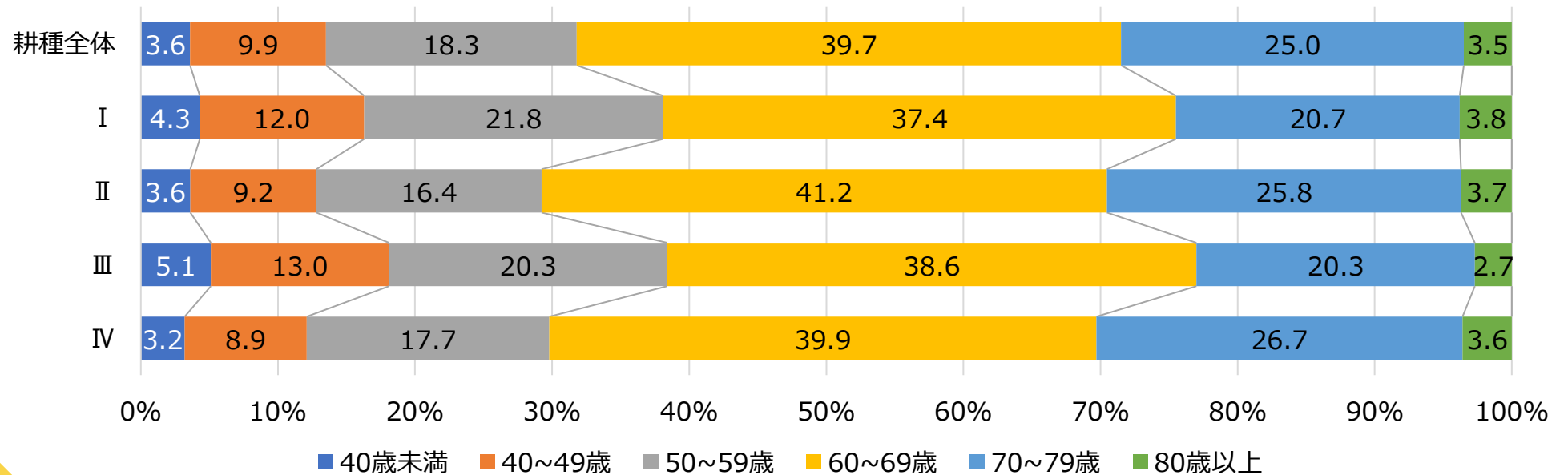


2. 利用者グループの特徴 -販売金額規模別- : 部門別

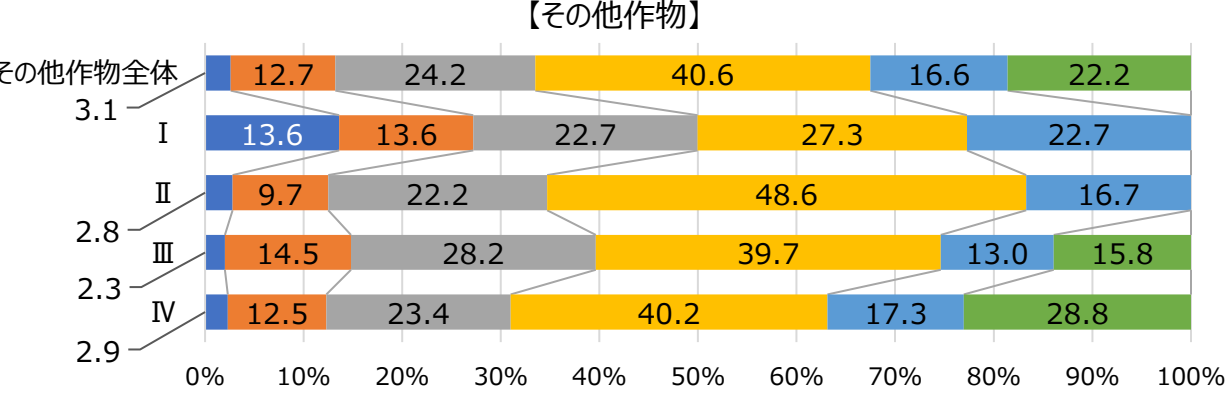
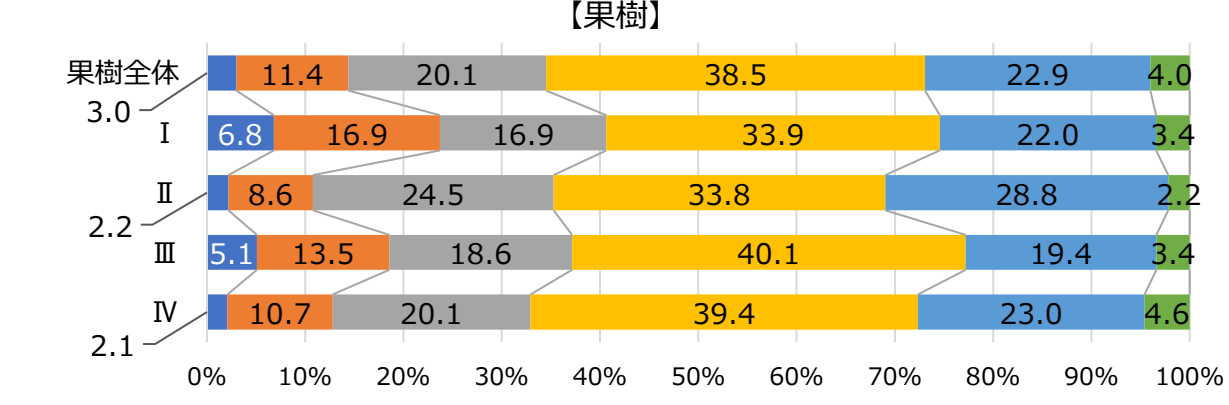
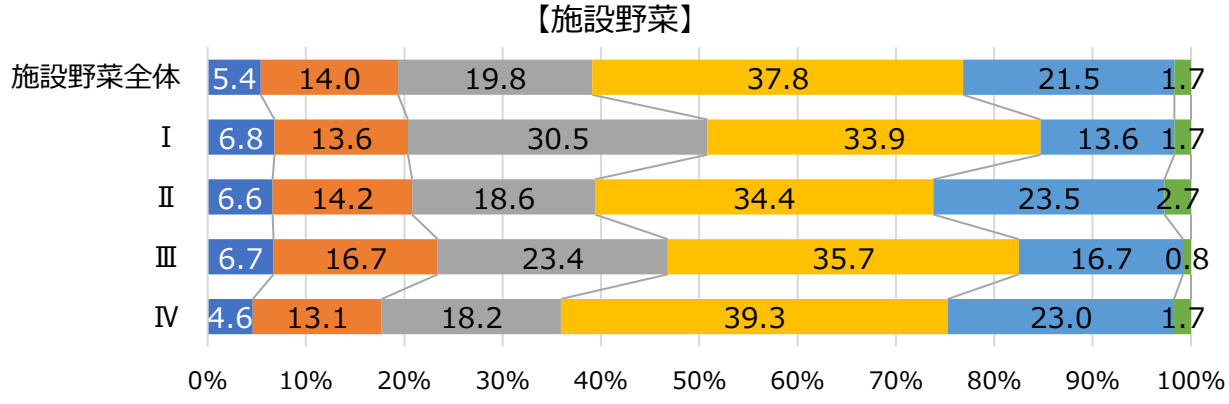
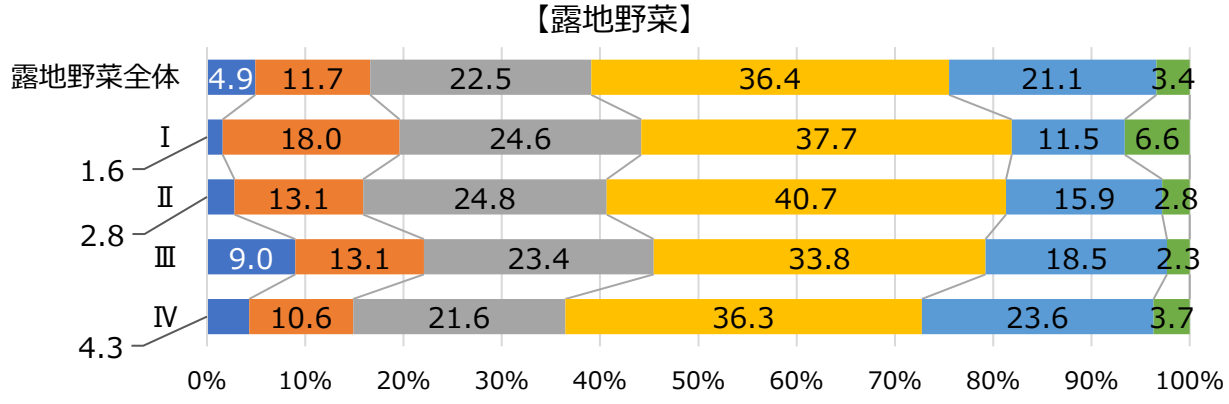
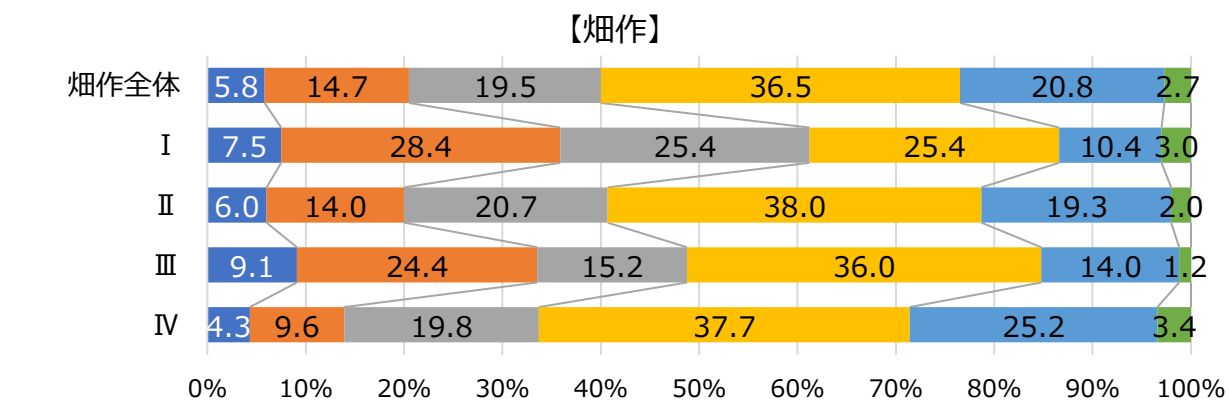
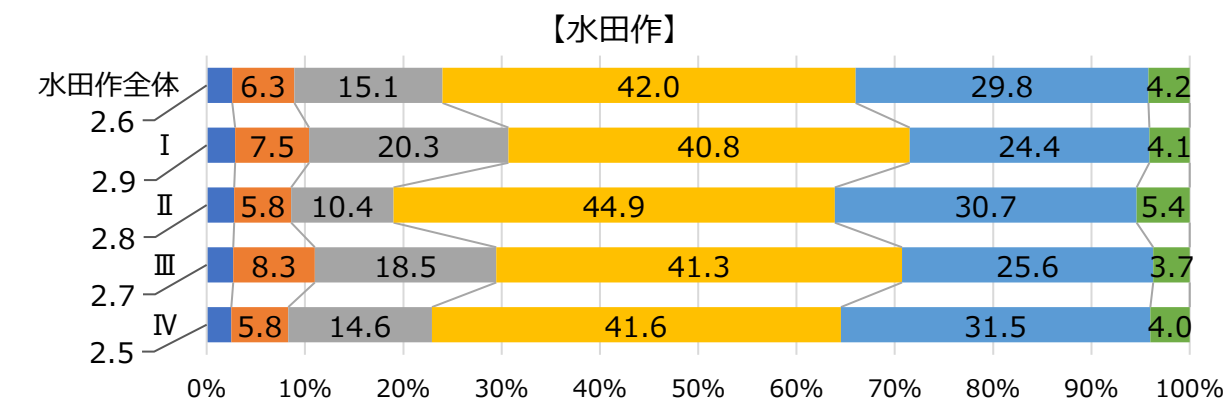


2. 利用者グループの特徴 -農業経営主年齢別-

- 耕種全体における、グループⅠ～Ⅳごとの農業経営主年齢別の構成割合は下図のとおり。
- 耕種全体としては、60歳未満の割合が約30%、60歳以上が約70%となっている。
- グループⅠ・Ⅲは、グループⅡ・Ⅳに比べて、60歳未満の割合が約10ポイント高くなっており、その構成割合は約40%となっている。

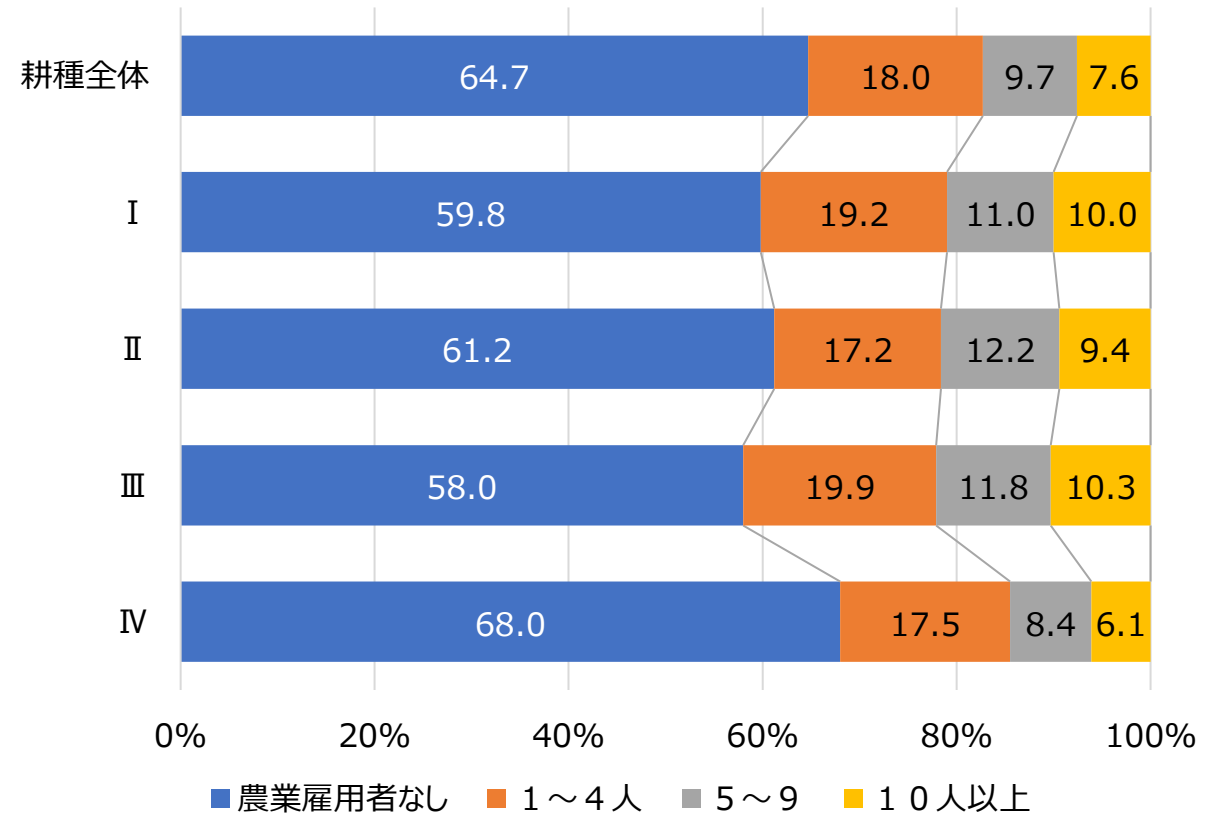


2. 利用者グループの特徴 -農業経営主年齢別-：部門別

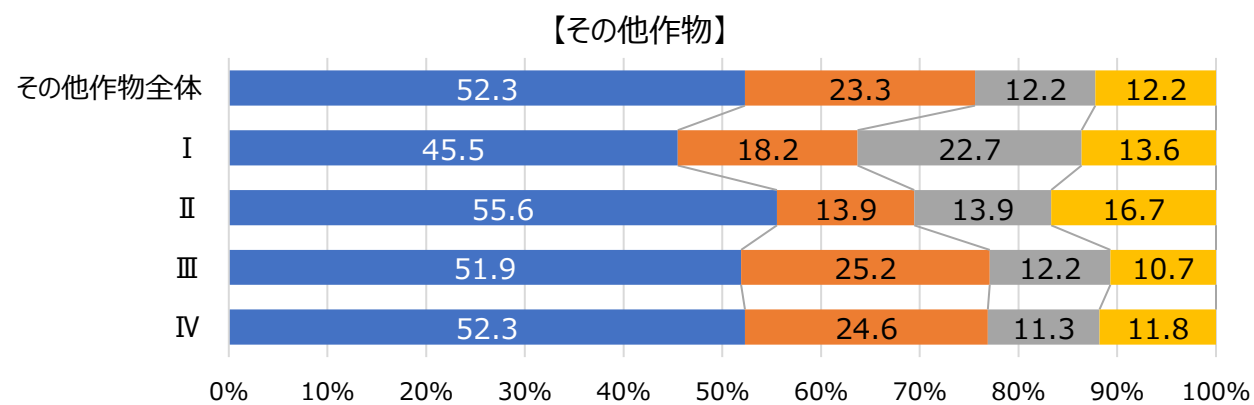
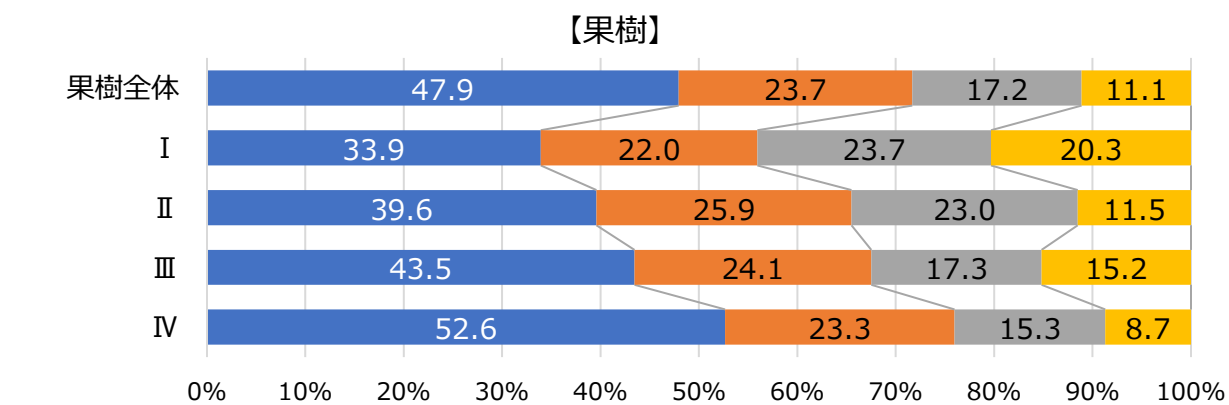
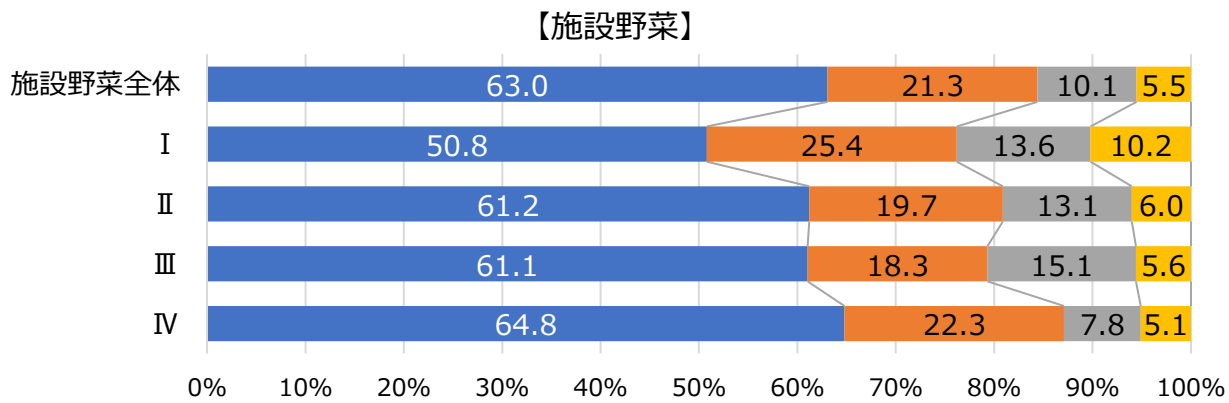
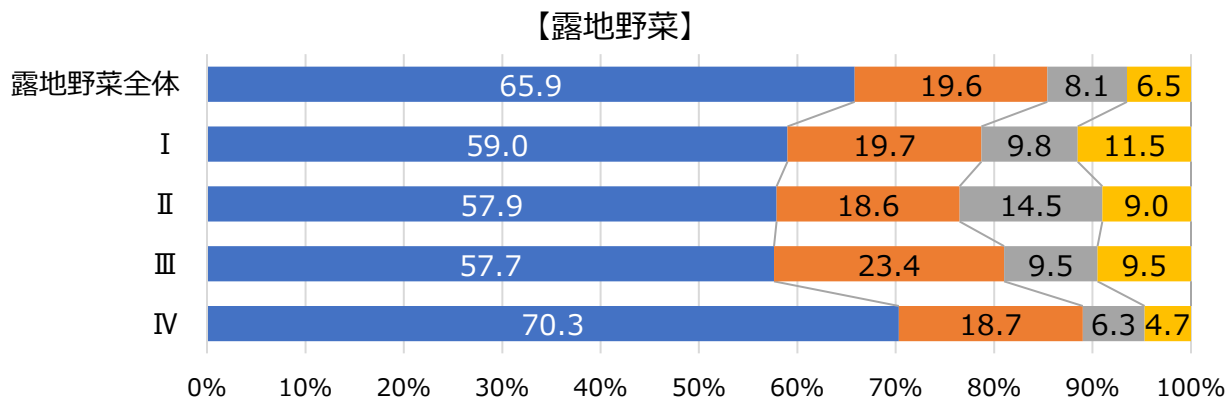
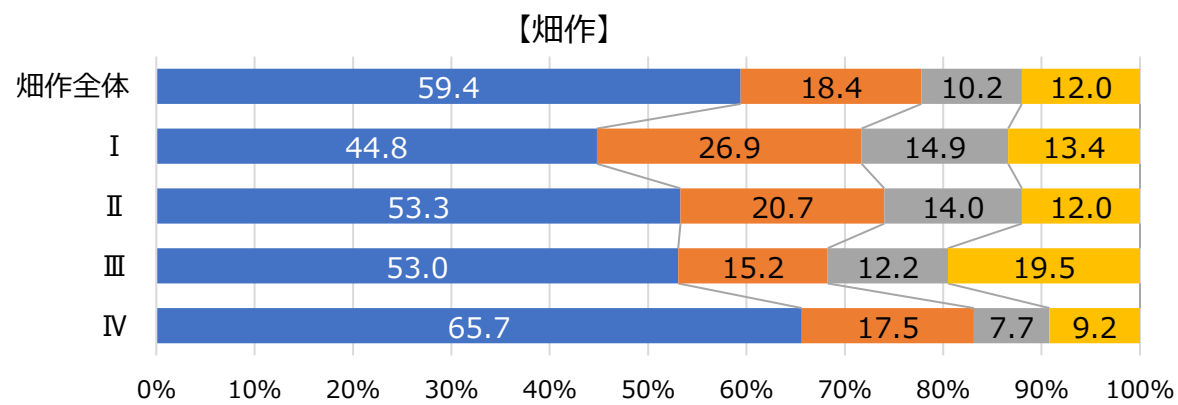
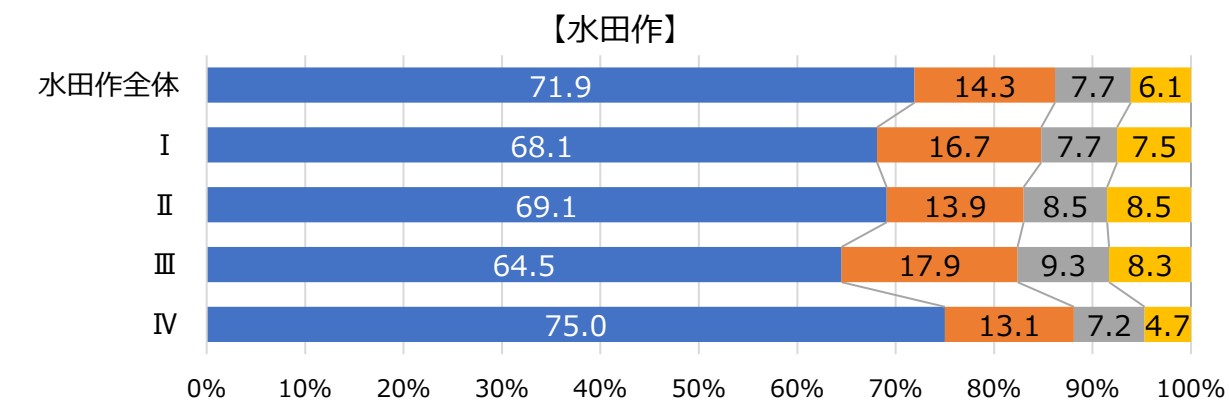


2. 利用者グループの特徴 -農業雇用者人数規模別-

- 耕種全体における、グループⅠ～Ⅳごとの農業雇用者人数規模別の構成割合は右図のとおり。
- 耕種全体として、農業雇用者なしの割合が約65%を占めている。
- グループⅣは、Ⅰ～Ⅲと比較して、農業雇用者なしの割合が10ポイント程度高く、その割合は約70%となっている。

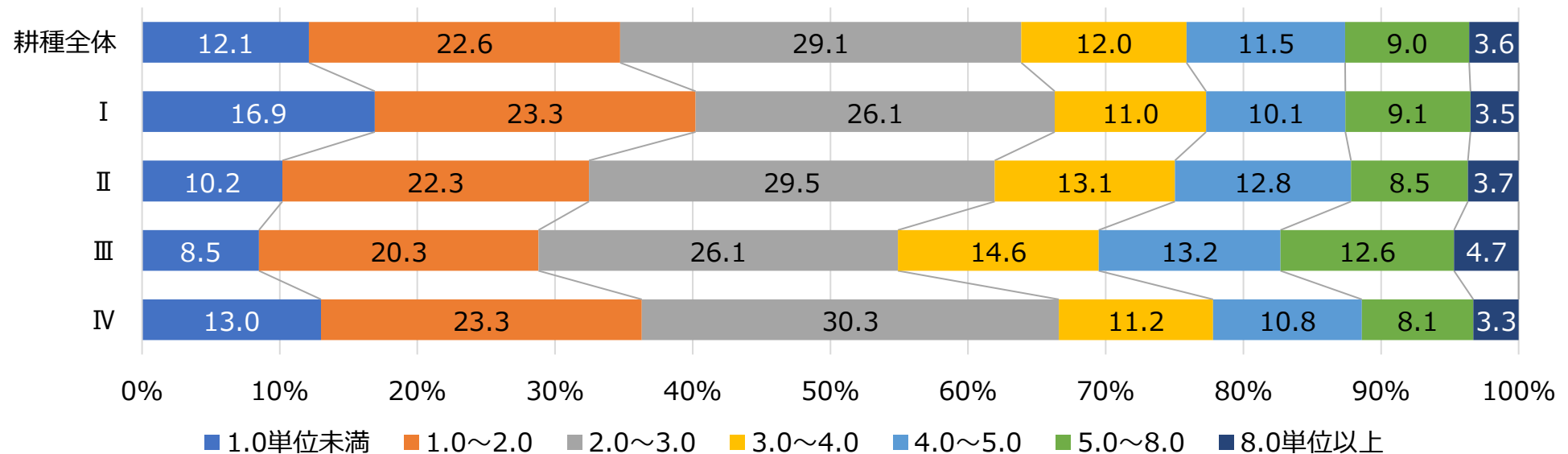


2. 利用者グループの特徴 -農業雇用者人数規模別-：部門別



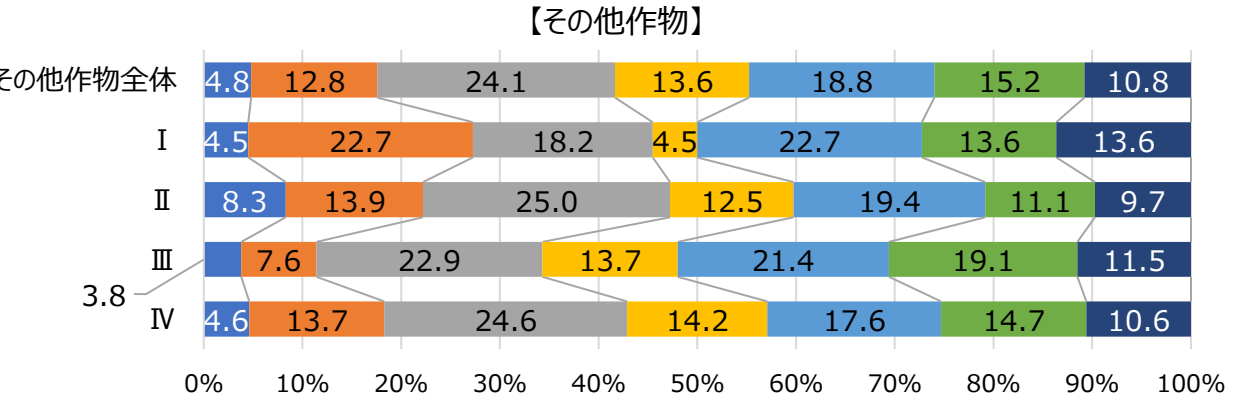
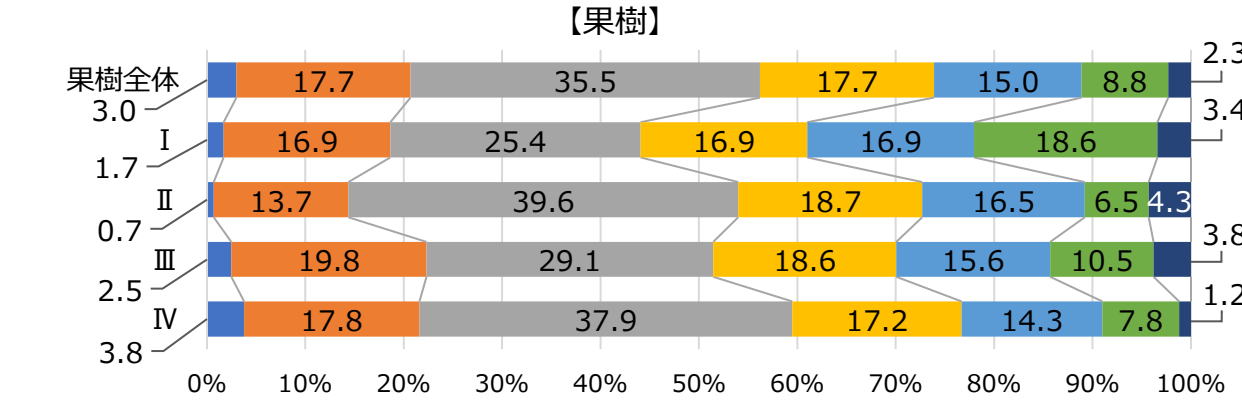
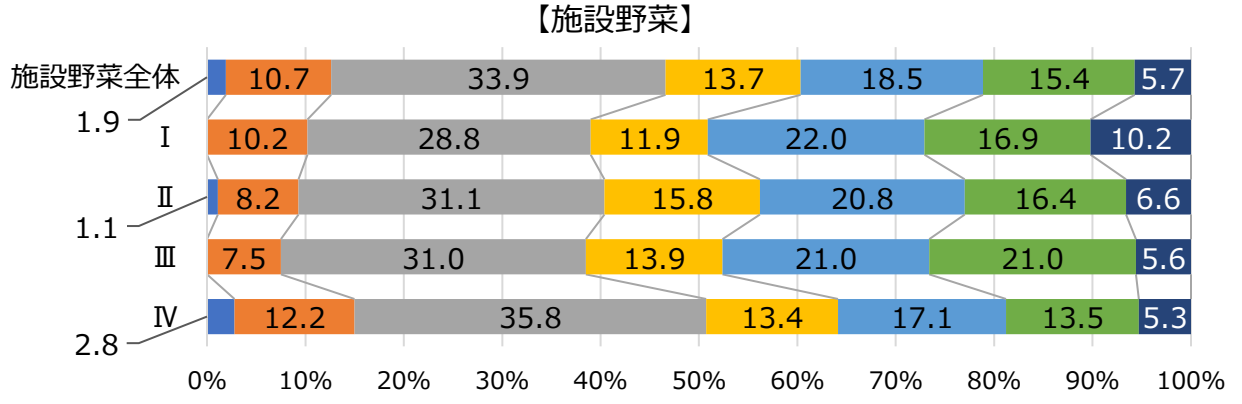
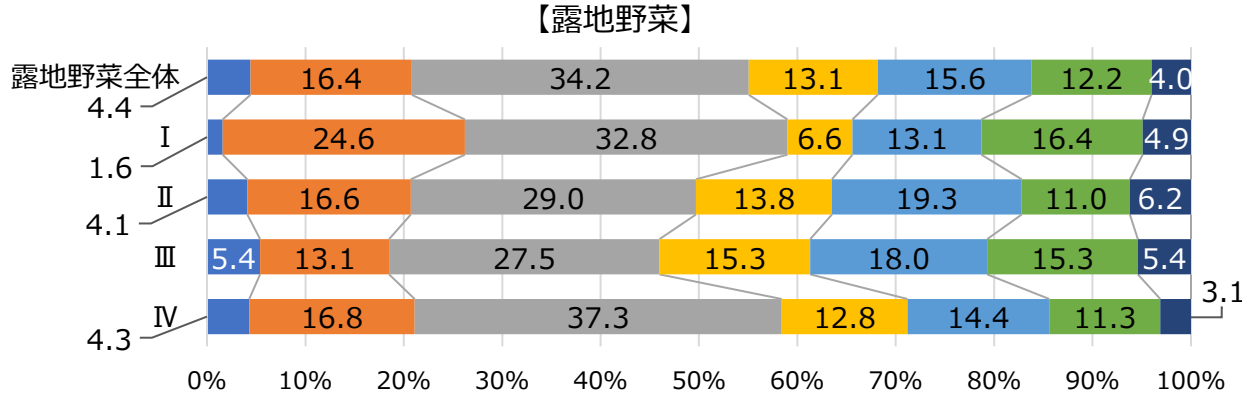
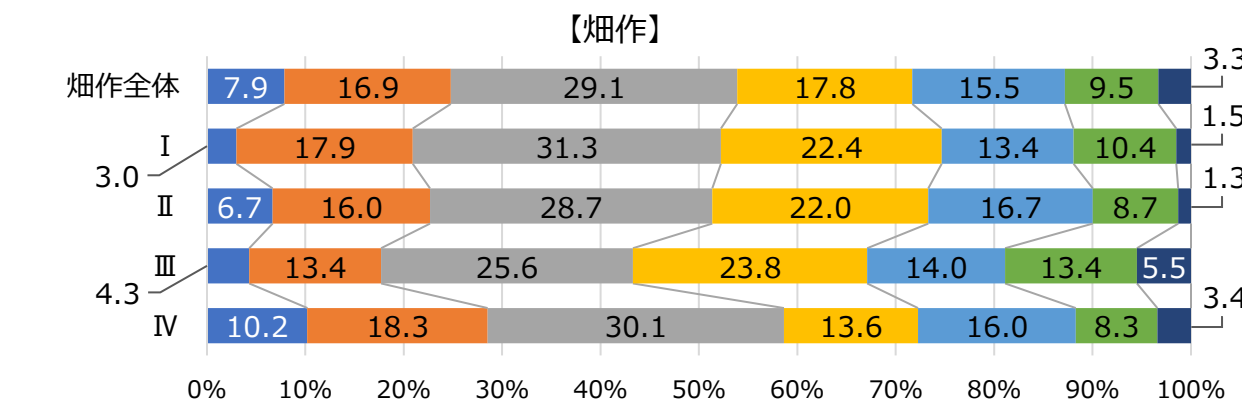
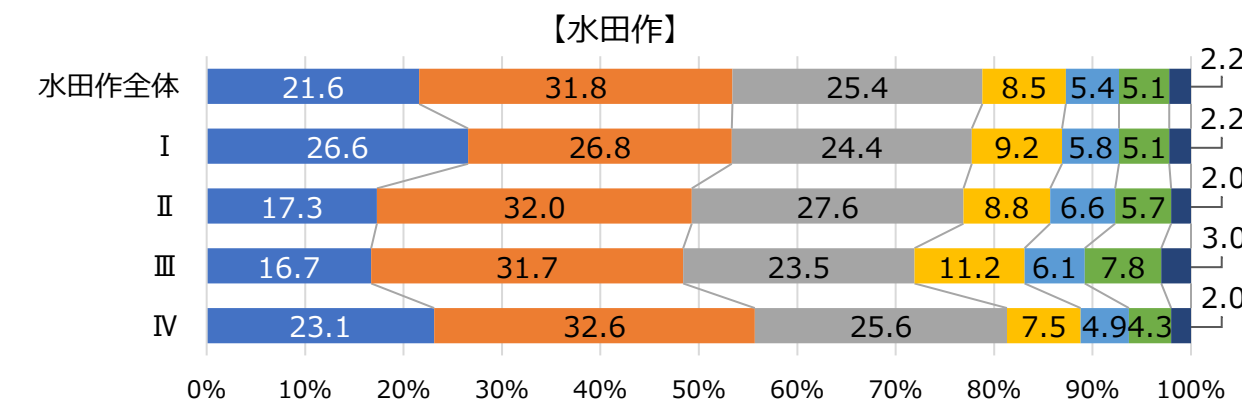
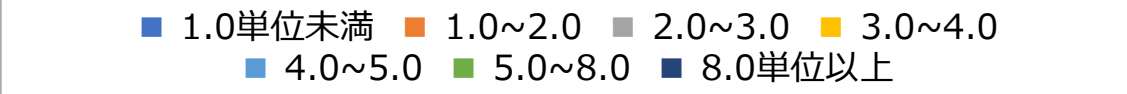
2. 利用者グループの特徴 -農業投下労働規模別-

- 耕種全体における、グループⅠ～Ⅳごとの農業投下労働規模別（※）の構成割合は以下のとおり。
- 耕種全体としては、農業投下労働規模が3.0単位未満の割合が60%を超えている。
- グループⅢは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳと比較して、投下労働規模が3.0単位未満の割合が5～10ポイント程度低く、約55%となっている。



※年間農業労働時間1,800時間（1日8時間換算で225日）を1単位の農業労働単位とし、農業経営に投下された総労働日数を225日で除した値により分類。

2. グループごとの特徴⑤ -農業投下労働規模別- : 部門別



2. 利用者グループの特徴（耕種まとめ）

①農業雇用者人数
1人以上の割合

①42.0%
②45.1%

①40.2%
②33.7%

I
7.2%

II
14.0%

①38.8%
②38.1%

III
17.7%

②投下労働規模
3.0単位以上の割合

【販売金額規模：500万円以上】
II・III > I・IV

【農業経営主年齢：60歳未満】
I・III > II・IV

IV
61.1%

①32.0%
②33.4%

- 耕種におけるグループ I ～ IV の構成割合（円の大きさ）、各グループの農業雇用者人数1人以上の割合（縦軸）、各グループの投下労働規模3.0単位以上の割合（横軸）の関係性を表したバブルチャートは左図のとおり。
- 特にグループIVは他のグループと比べて、労働コスト（農業雇用者人数1人以上の割合及び投下労働規模3.0単位以上の割合）は比較的低くなっている。
- また、グループ I ～ IV において構成割合に差はないという帰無仮説のもと、以下のa～eの分類についてカイ二乗検定を行った結果、全ての分類においていずれかの組合せで有意差がみられた（有意水準はボンフェローニ補正により $P=0.0017$ を使用）。
- 中でも特徴的なものを挙げると、500万円以上の割合について、II・IIIとI・IVの間に有意差がみられた(b)。また、60歳未満の割合について、I・IIIとII・IVの間に有意差がみられた(c)。
 - a. 個人経営体/団体経営体
 - b. 販売金額規模500万円未満/以上
 - c. 農業経営主年齢60歳未満/以上
 - d. 農業雇用者人数なし/ 1人以上
 - e. 農業投下労働規模3.0単位未満/以上

The background features several large, overlapping geometric shapes in teal, yellow, and green, creating a modern, abstract design. These shapes are primarily located in the top right and bottom left corners, framing the central text.

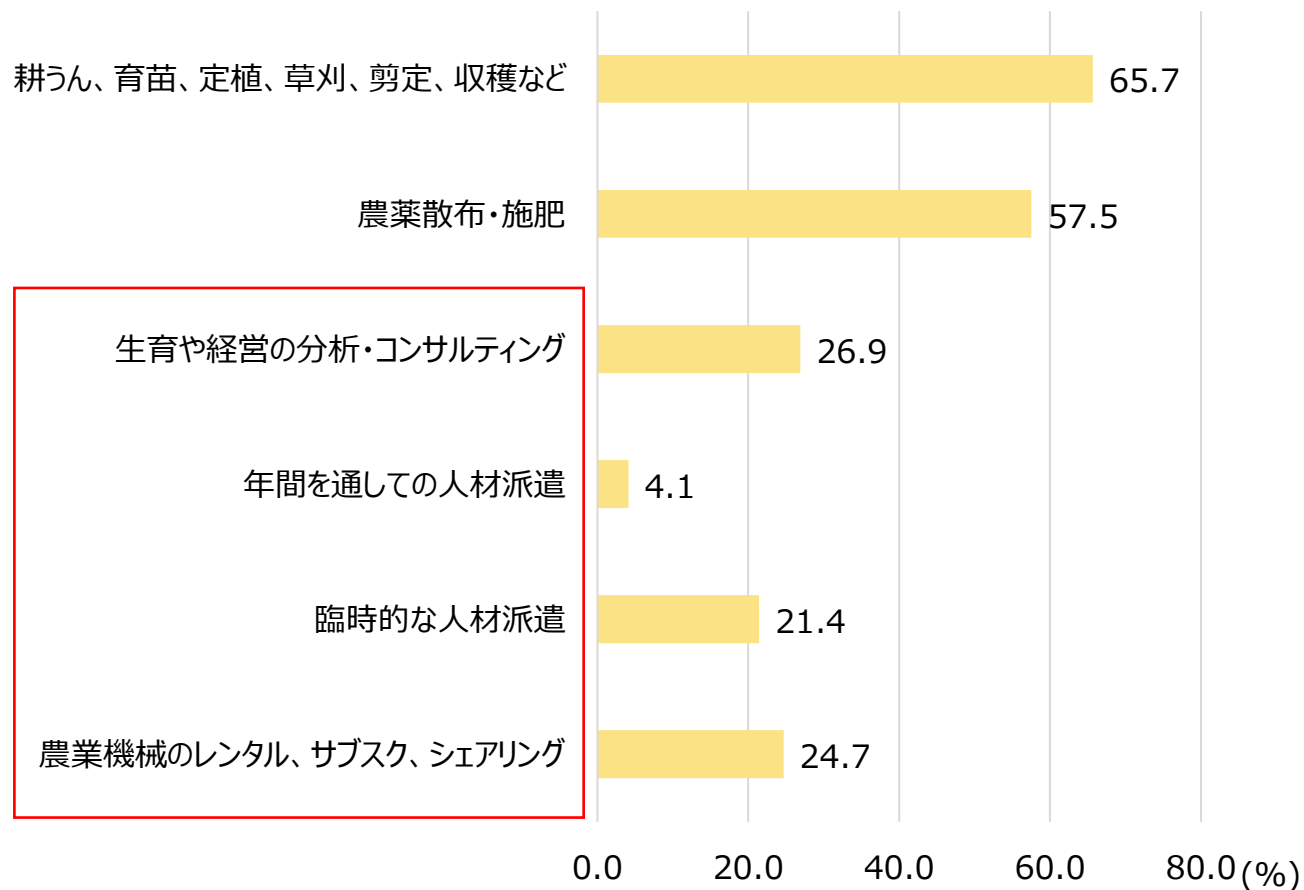
3. サービスの特徴

3. サービスの特徴（グループⅠの利用状況）

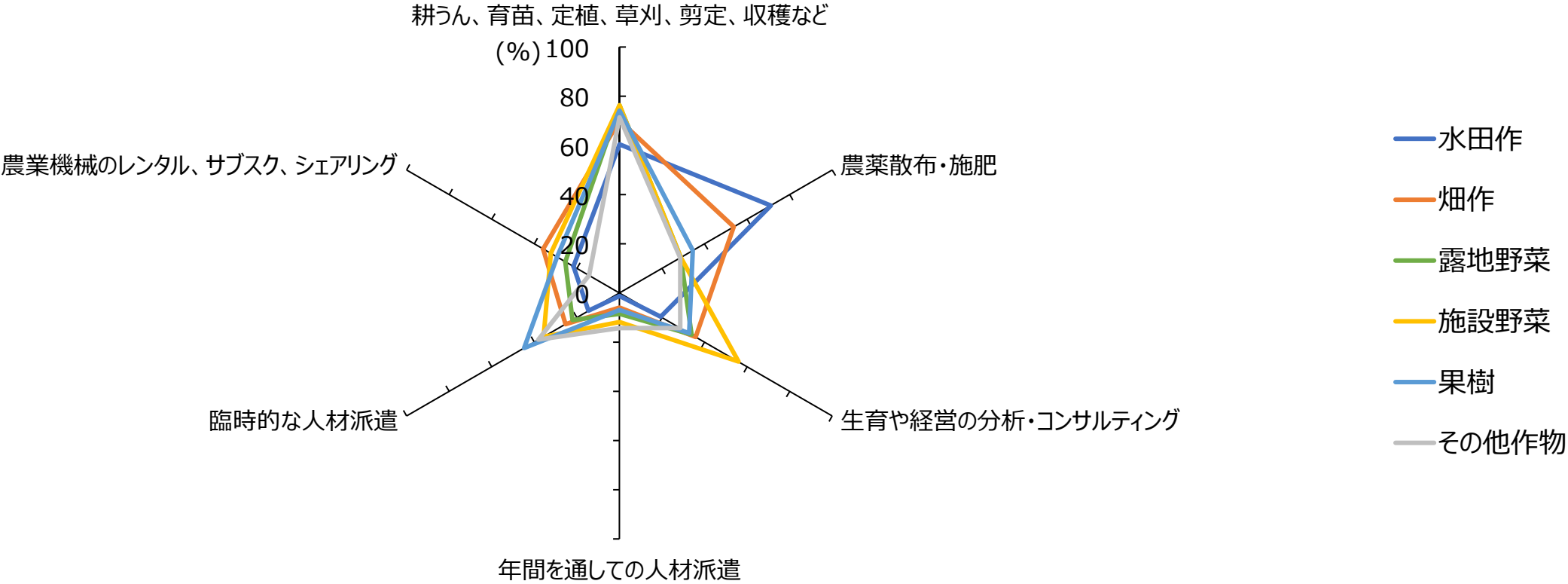
■グループⅠにおける個別のサービスの利用状況（耕種全体）は右図のとおり。

■特に、「耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など」や「農薬散布・施肥」において、利用率が高い傾向が見受けられる。

■一方、その他の4つのサービスは利用率が低く、いずれも30%以下である。特に、「年間を通しての人材派遣」は利用率が特に低い（4.1%）。



3. サービスの特徴（グループⅠの利用状況）：部門別

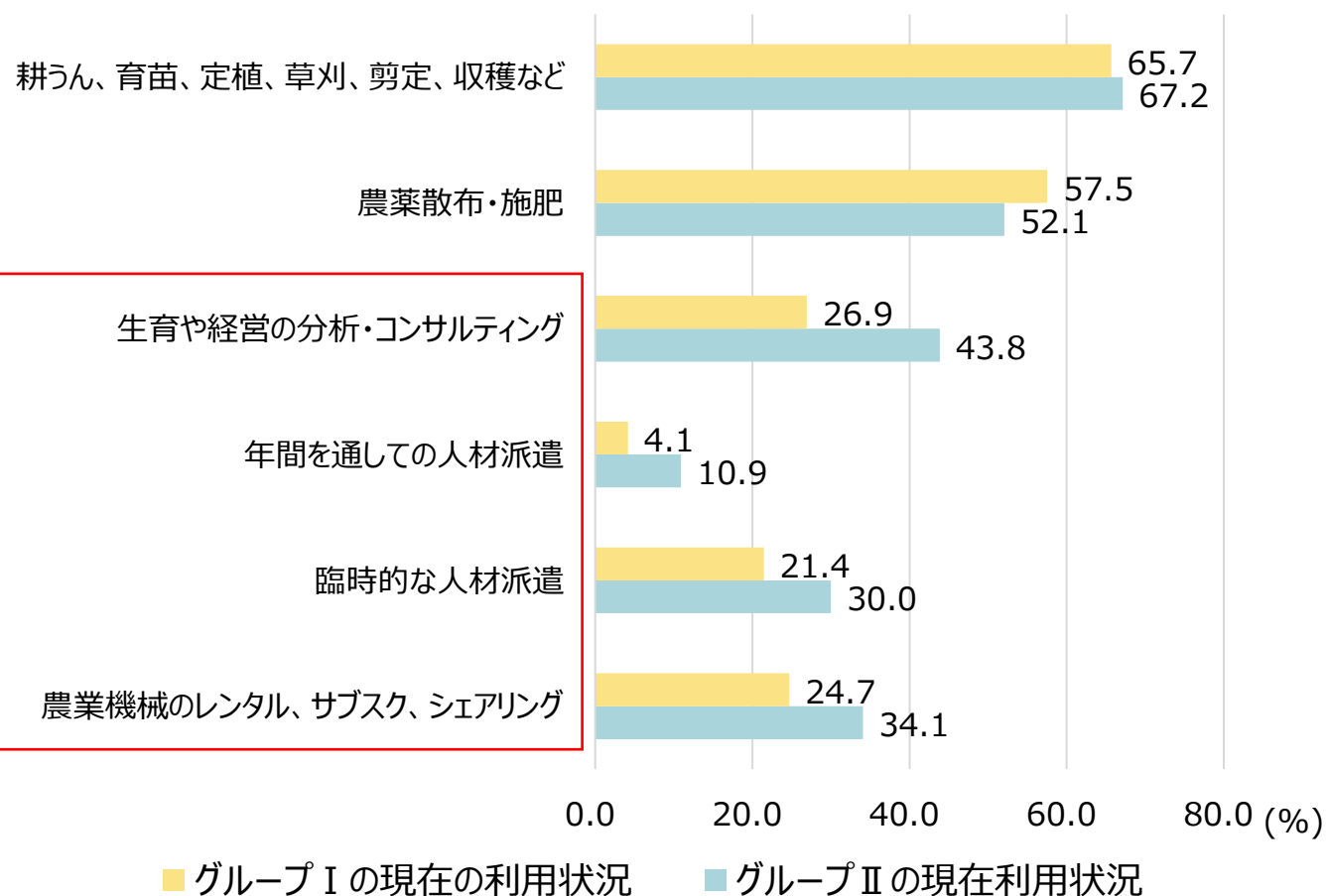


	水田作(412人)	畑作(67人)	露地野菜(59人)	施設野菜(59人)	果樹(58人)	その他作物(21人)
耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など	60.4%	70.1%	76.3%	76.3%	74.1%	71.4%
農薬散布・施肥	71.1%	53.7%	28.8%	28.8%	34.5%	28.6%
生育や経営の分析・コンサルティング	19.4%	35.8%	33.9%	55.9%	32.8%	28.6%
年間を通しての人材派遣	1.2%	6.0%	8.5%	11.9%	6.9%	14.3%
臨時的な人材派遣	14.6%	25.4%	22.0%	35.6%	44.8%	38.1%
農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング	21.6%	35.8%	25.4%	32.2%	29.3%	14.3%

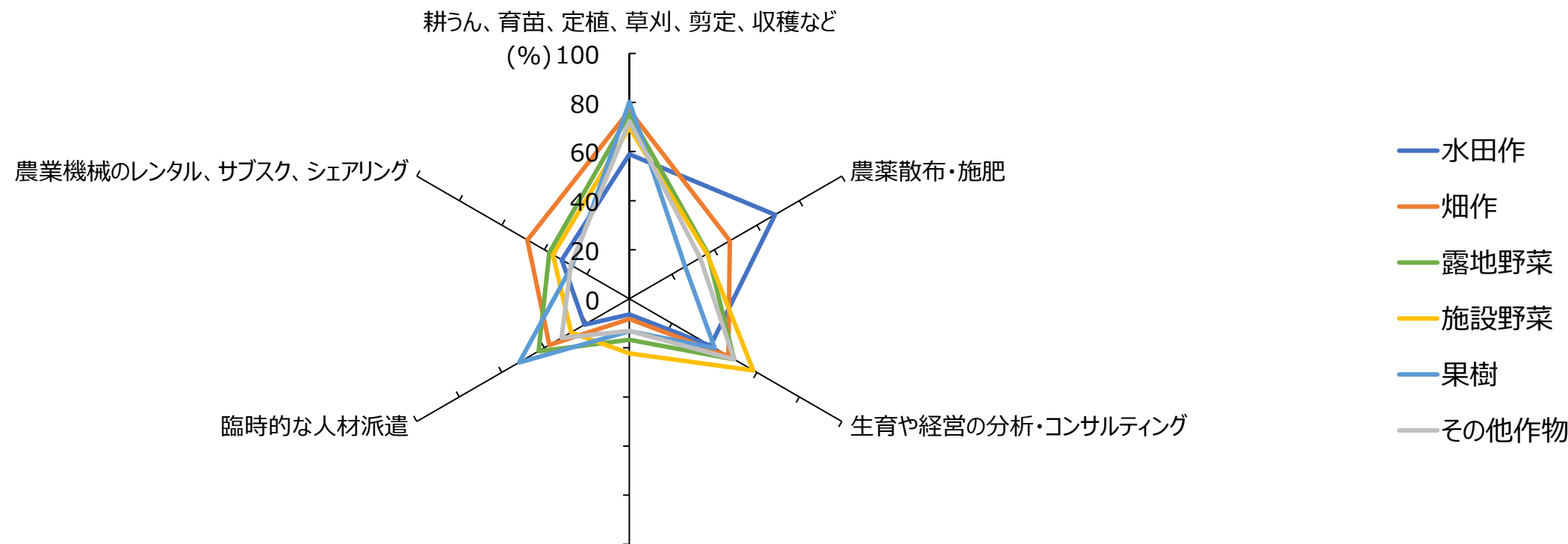
3. サービスの特徴（グループⅡの利用状況）

■グループⅡにおける個別のサービスの利用状況は右図のとおり。

■グループⅡとグループⅠの利用状況を比較すると、グループⅡの方が「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」、「臨時的人材派遣」、「年間を通しての人材派遣」、「生育や経営の分析・コンサルティング」の4つのサービスの利用率が高くなっている。



3. サービスの特徴（グループⅡの利用状況）：部門別



複数の部門において、ⅠよりⅡの回答率が高い

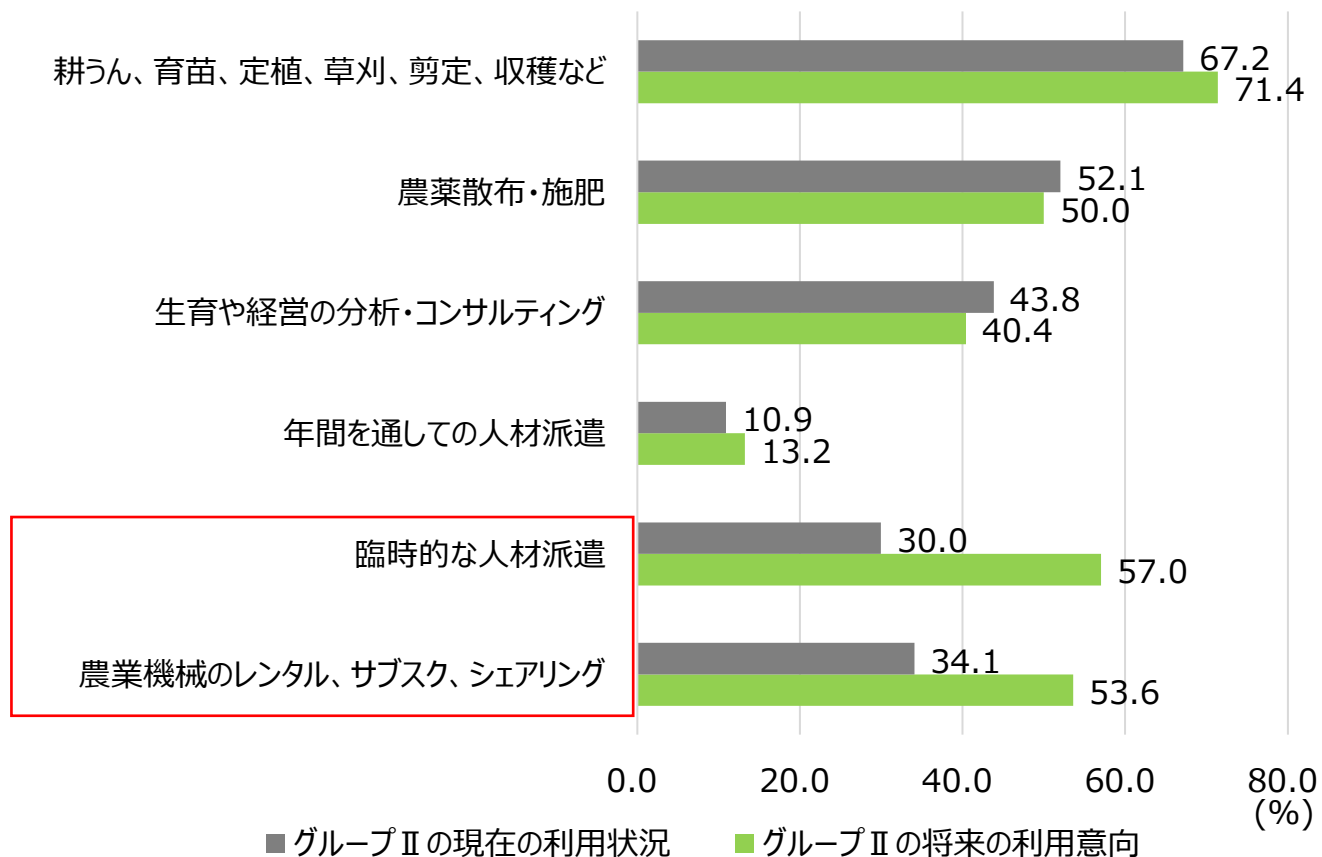
	水田作 (626人)	畑作 (146人)	露地野菜 (138人)	施設野菜 (175人)	果樹 (137人)	その他作物 (69人)
耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など	58.9%	76.7%	75.4%	69.7%	80.3%	72.5%
農薬散布・施肥	68.5%	47.3%	37.0%	36.6%	26.3%	33.3%
生育や経営の分析・コンサルティング	38.2%	46.6%	49.3%	58.3%	40.1%	49.3%
年間を通しての人材派遣	6.4%	8.2%	16.7%	22.3%	13.1%	13.0%
臨時的人材派遣	21.1%	37.7%	42.8%	27.4%	51.8%	31.9%
農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング	31.8%	47.9%	37.7%	36.0%	27.0%	27.5%

Ⅰの利用状況と比較して10ポイント以上高い分野

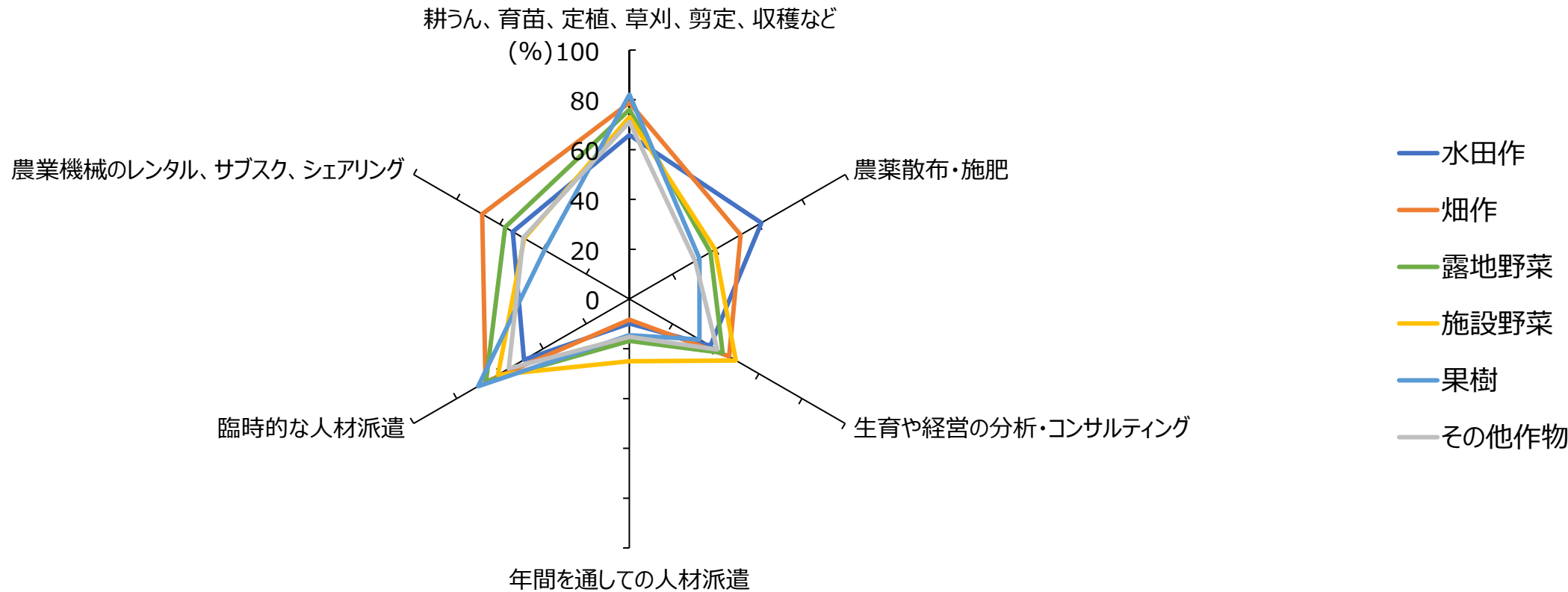
3. サービスの特徴（グループⅡの利用意向）

■グループⅡにおける個別のサービスの将来の利用意向は右図のとおり。

■グループⅡの現在の利用状況と比較すると、特に「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」と「臨時的な人材派遣」において、現在の利用状況よりも将来の利用意向の回答率が15ポイント以上高くなっている。



3. サービスの特徴（グループⅡの利用意向）：部門別



全ての部門において
現在の利用状況より
も将来の利用意向
の回答率が高い

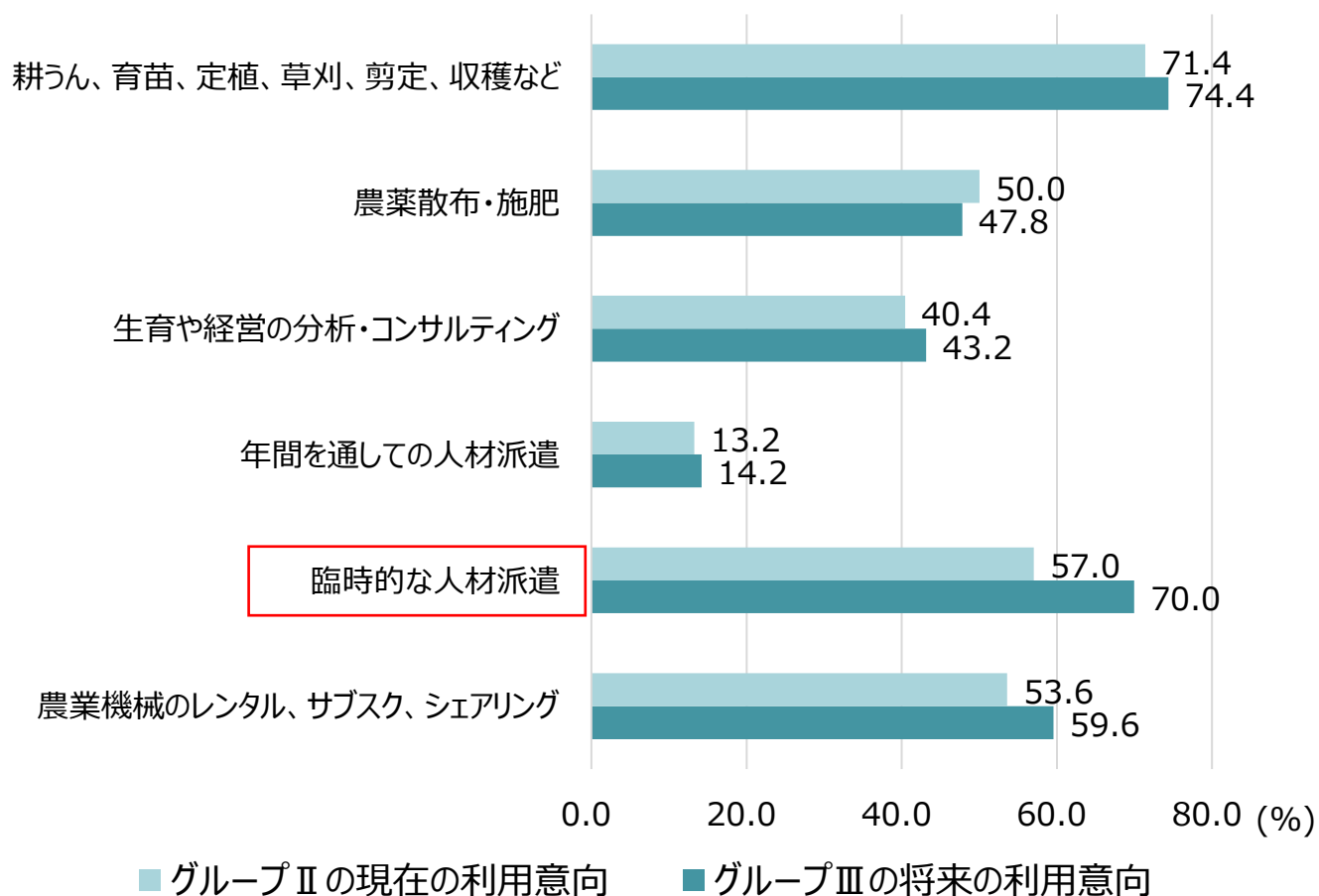
	水田作 (551人)	畑作 (132人)	露地野菜 (125人)	施設野菜 (156人)	果樹 (117人)	その他作物 (59人)
耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など	65.9%	78.8%	76.0%	73.1%	82.1%	71.2%
農薬散布・施肥	61.2%	51.5%	37.6%	39.7%	32.5%	30.5%
生育や経営の分析・コンサルティング	37.6%	46.2%	43.2%	49.4%	32.5%	40.7%
年間を通しての人材派遣	9.8%	8.3%	16.8%	25.0%	14.5%	15.3%
臨時的な人材派遣	48.8%	66.7%	66.4%	60.9%	70.1%	55.9%
農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング	54.1%	68.2%	57.6%	48.7%	39.3%	49.2%

現在の利用状況と
比較して10ポイント
以上高い分野

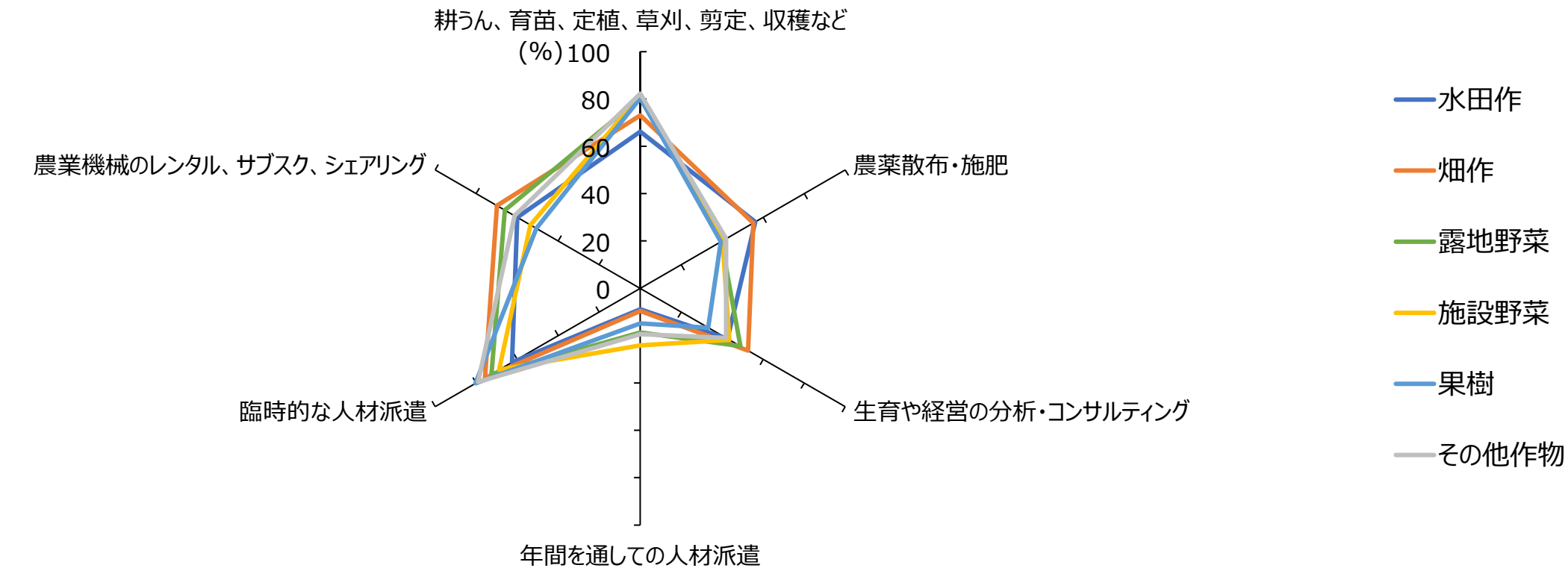
3. サービスの特徴（グループⅢの利用意向）

■グループⅢにおける個別のサービスの将来の利用意向は右図のとおり。

■グループⅡの将来の利用意向と比較すると、特に「臨時的な人材派遣」において、Ⅲの将来の利用意向の回答率が13ポイント高くなっている。



3. サービスの特徴（グループⅢの利用意向）：部門別

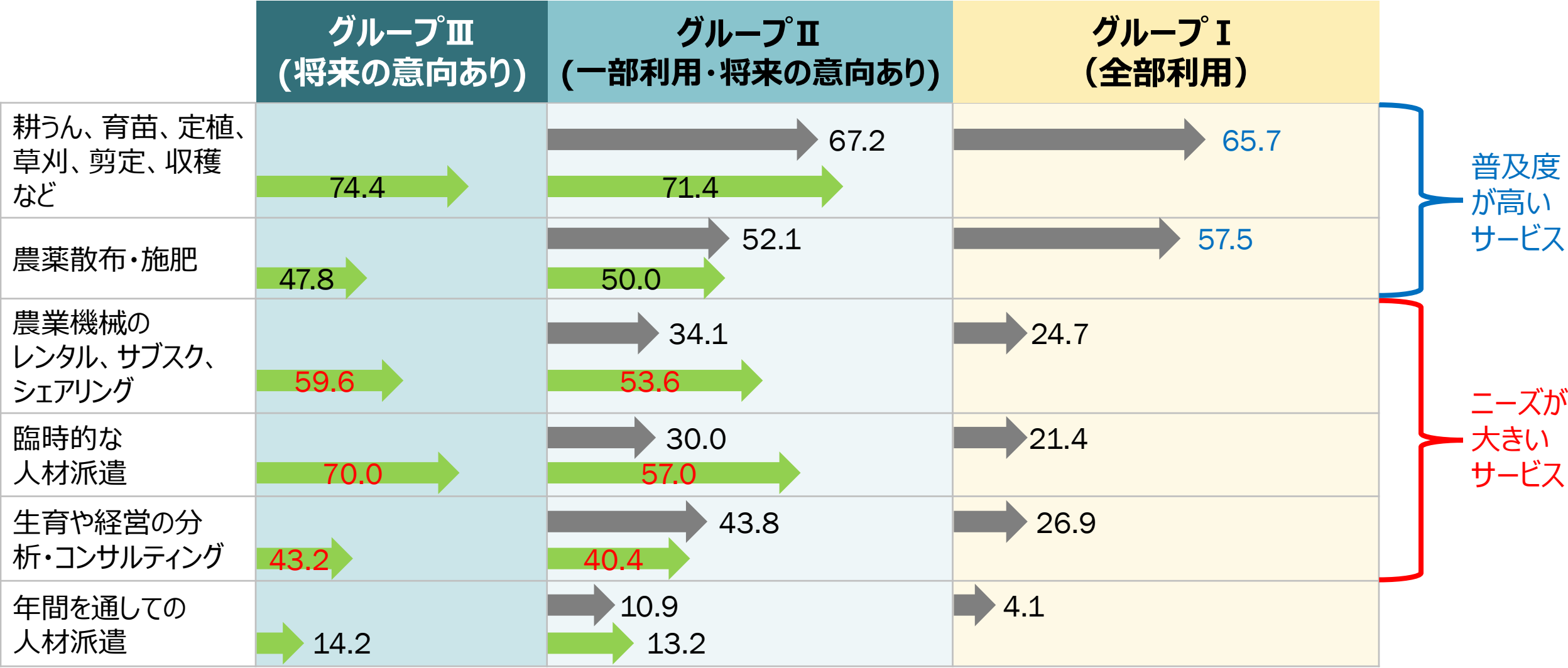


複数の部門において
ⅡよりもⅢの利用意
向の回答率が高い

Ⅱの利用意向と
比較して10ポイント
以上高い分野

3. サービスの特徴（耕種まとめ）

→ 現在の利用状況 (%)
→ 将来の利用意向 (%)



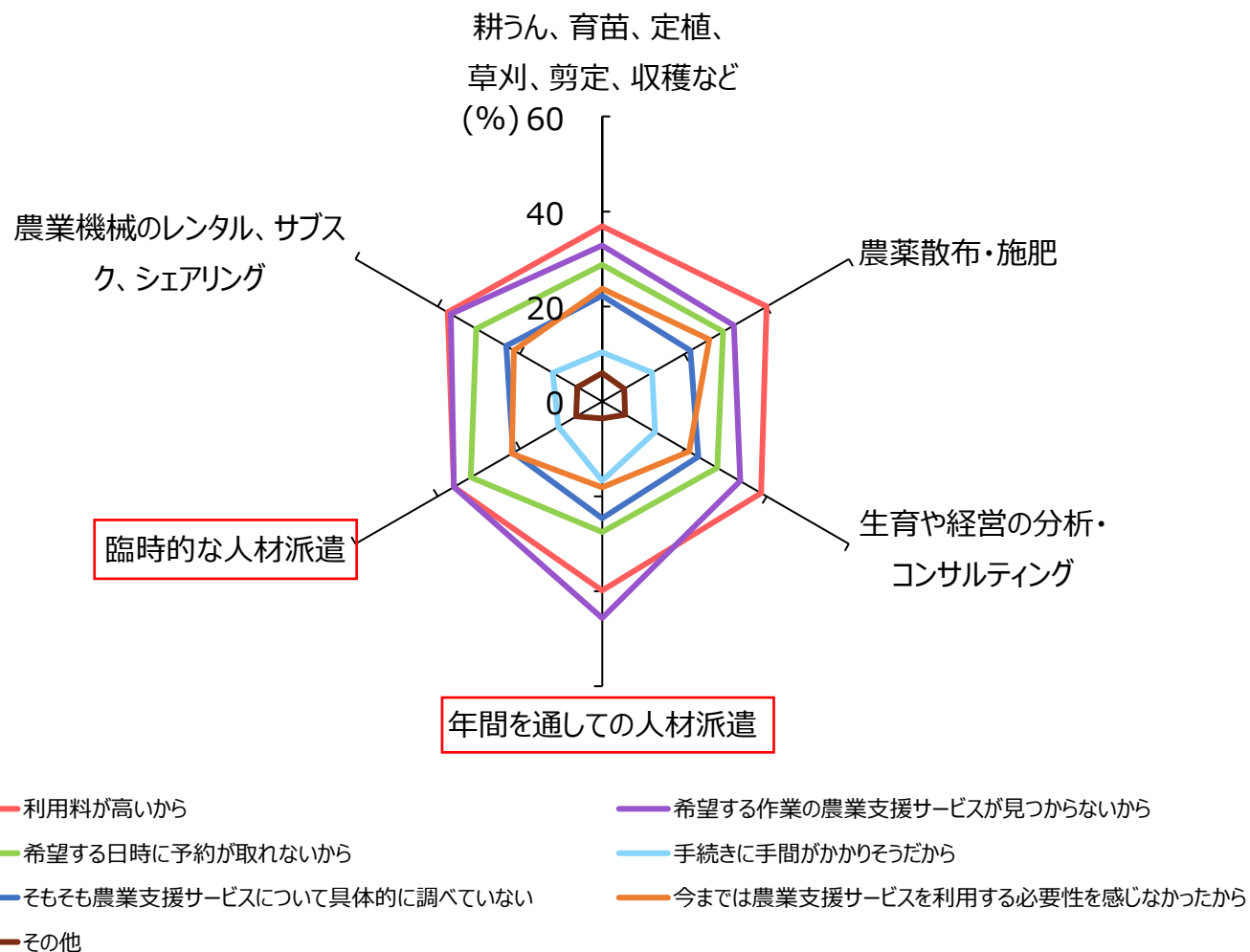
↑数字 (%) はⅢの利用意向より抜粋 ↑数字 (%) はⅡの利用状況及び利用意向より抜粋 ↑数字 (%) はⅠの利用状況より抜粋

※①普及度が高いサービス = グループⅠでの回答率が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。

4. アプローチ

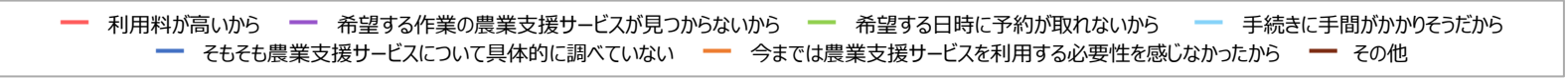
4. アプローチ①（グループⅡの利用課題）

- グループⅡにおける、利用意向のあるサービスと、サービスを利用できていない理由の関係性は右図のとおり。
- 「臨時的な人材派遣」、「年間を通しての人材派遣」では、「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」が最も回答率が高い。
- その他のサービスでは、「利用料が高いから」が最も回答率が高い。

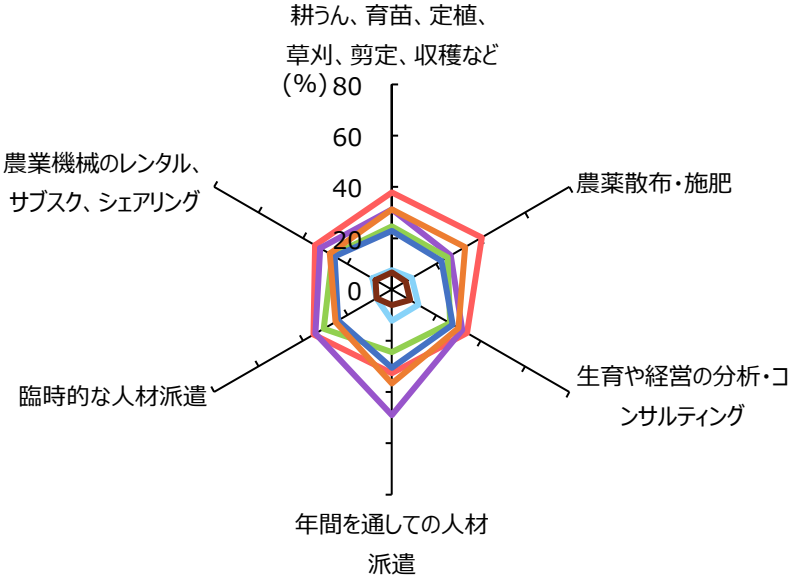


※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。 33

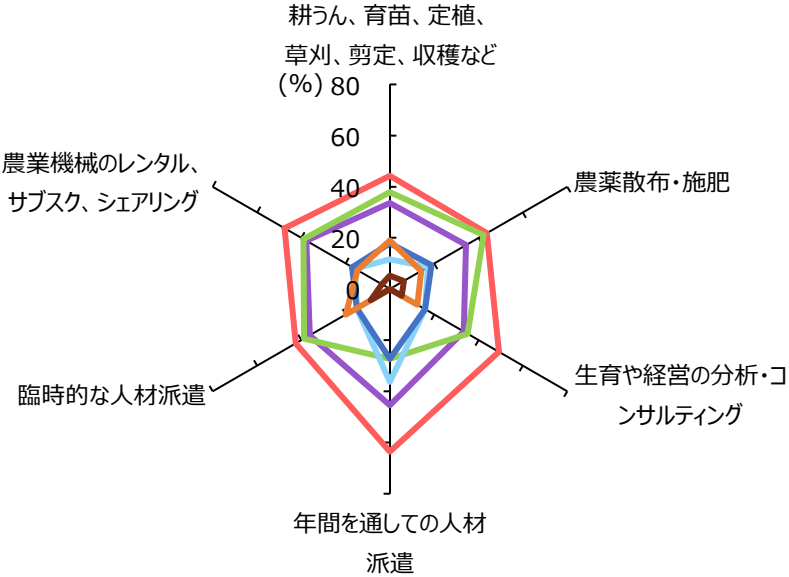
3. アプローチ①（Ⅱの利用課題）：部門別



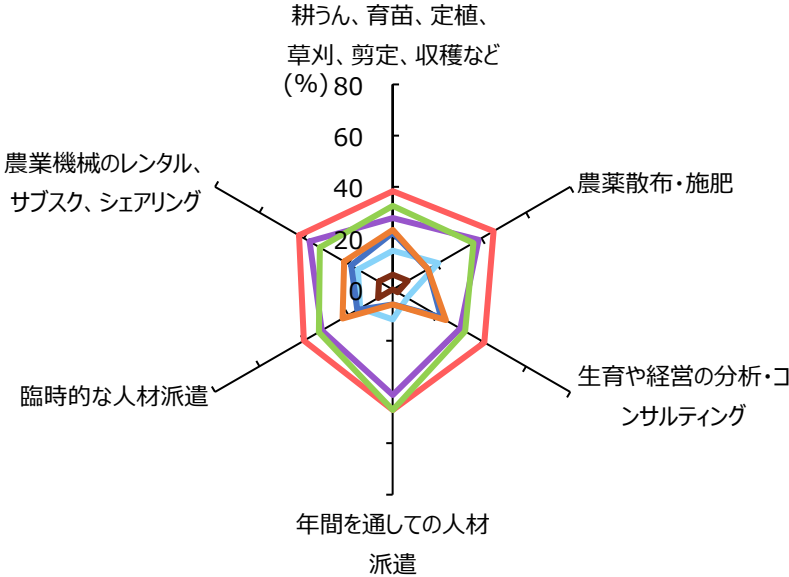
水田作



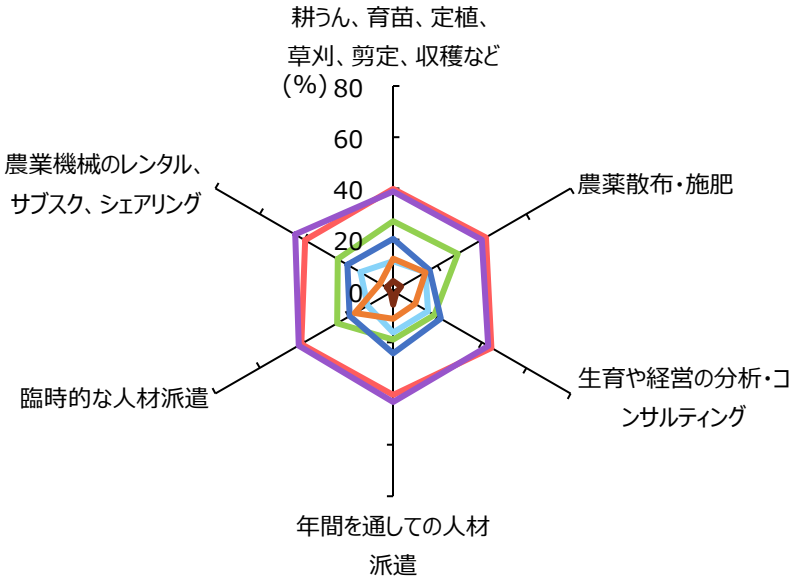
畑作



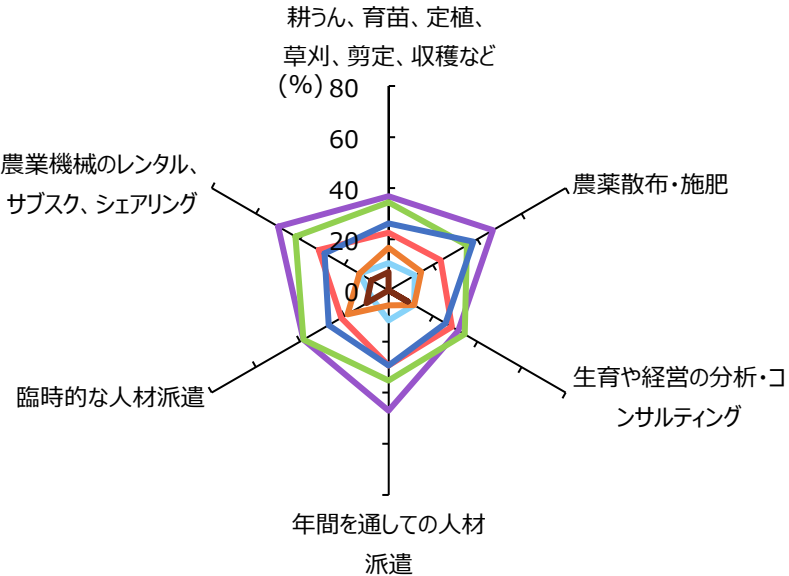
露地野菜



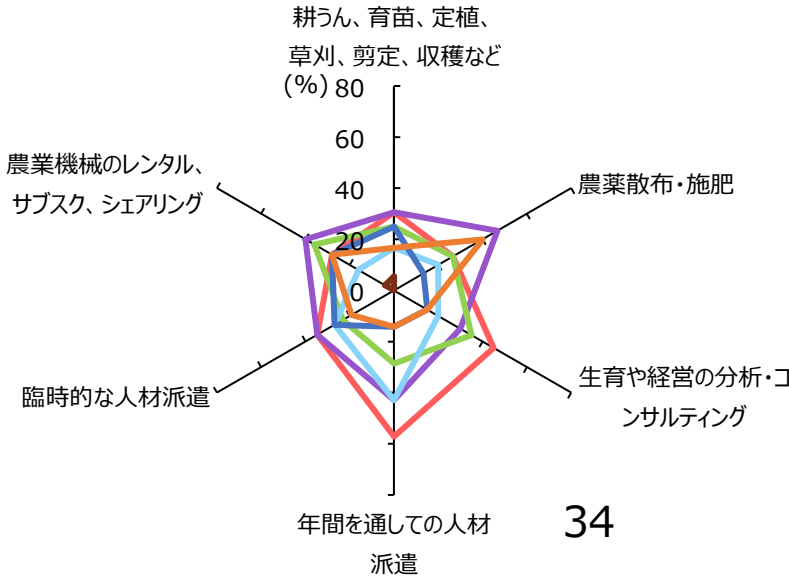
施設野菜



果樹

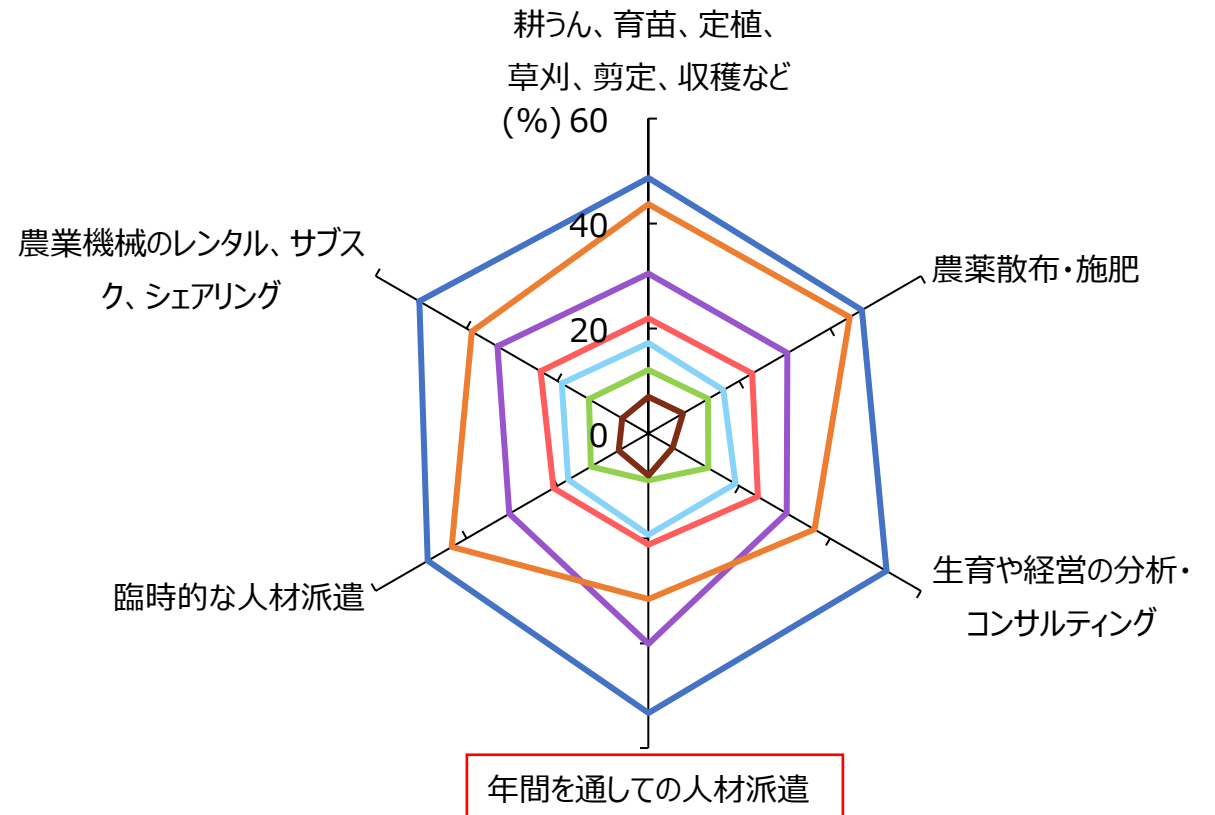


その他作物



4. アプローチ②（グループⅢの利用課題）

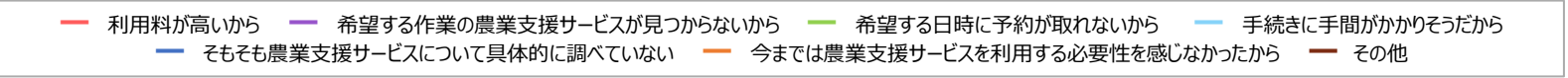
- グループⅢにおける、利用意向のあるサービスと、サービスを利用できていない理由の関係性は右図のとおり。
- 全てのサービスに共通して、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」「今までは農業支援サービスを利用する必要性を感じなかったから」が高い。
- 「年間を通しての人材派遣」については、「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」と回答している者の割合が、他のサービスに比べて高くなっている。



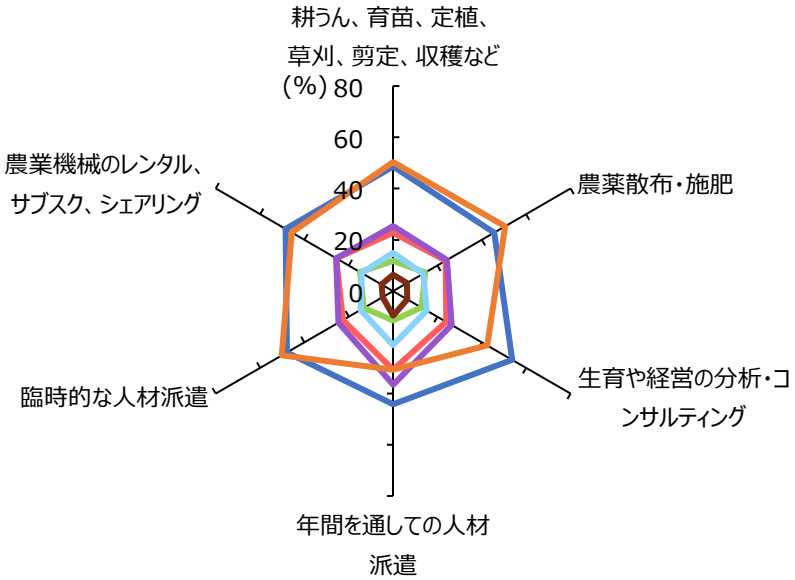
- 利用料が高いから
- 希望する日時に予約が取れないから
- そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない
- 希望する作業の農業支援サービスが見つからないから
- 手続きに手間がかかりそうだから
- 今までは農業支援サービスを利用する必要性を感じなかったから
- その他

※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。

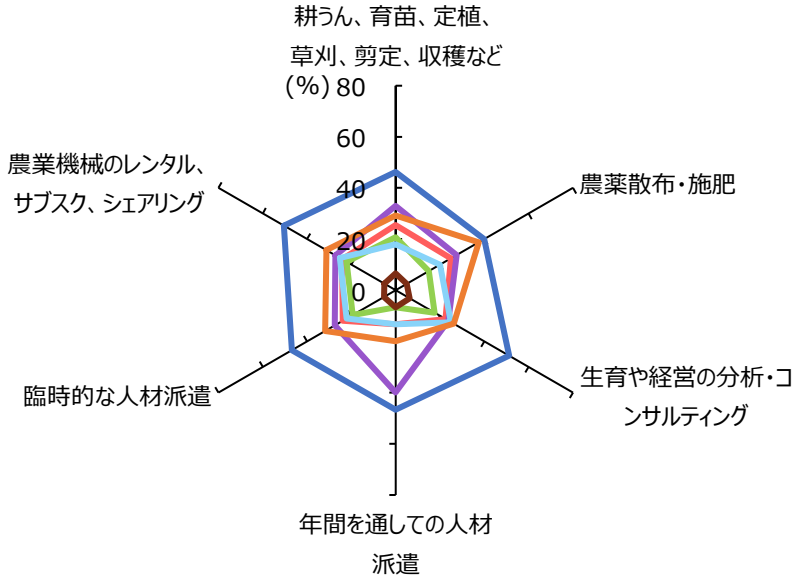
4. アプローチ②（Ⅲの利用課題）：部門別



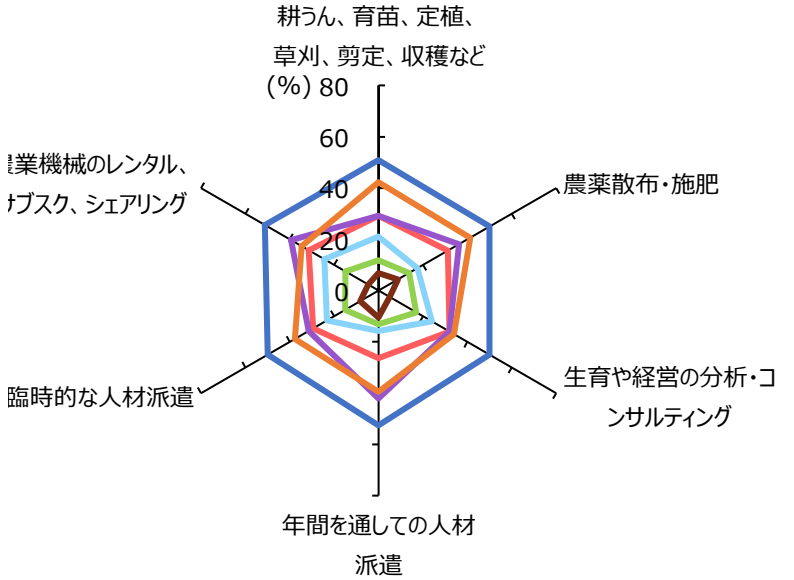
水田作



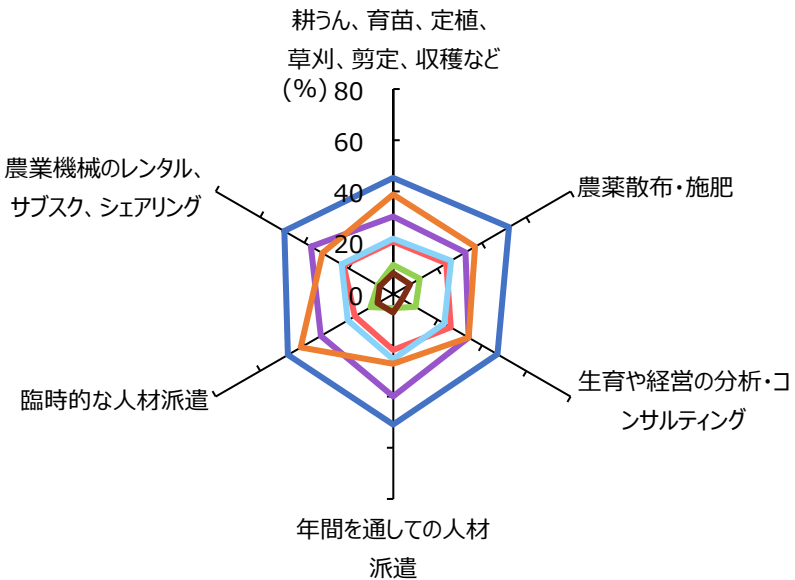
畑作



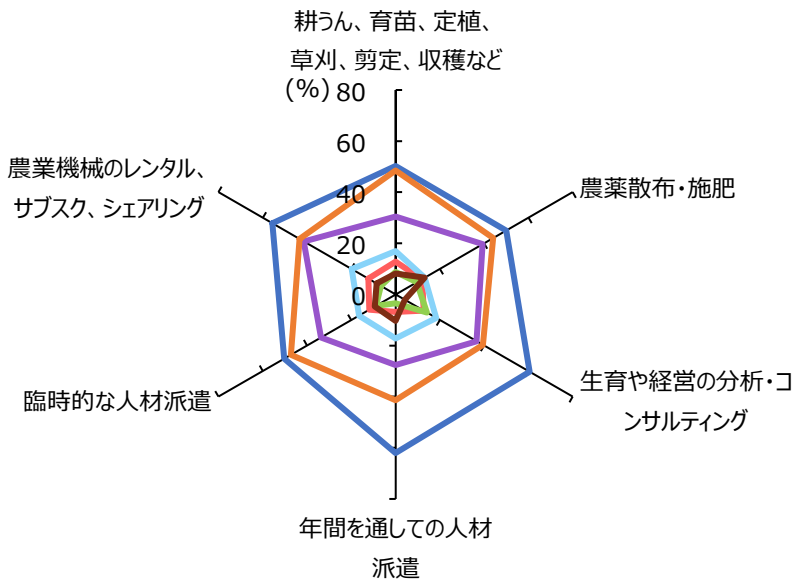
露地野菜



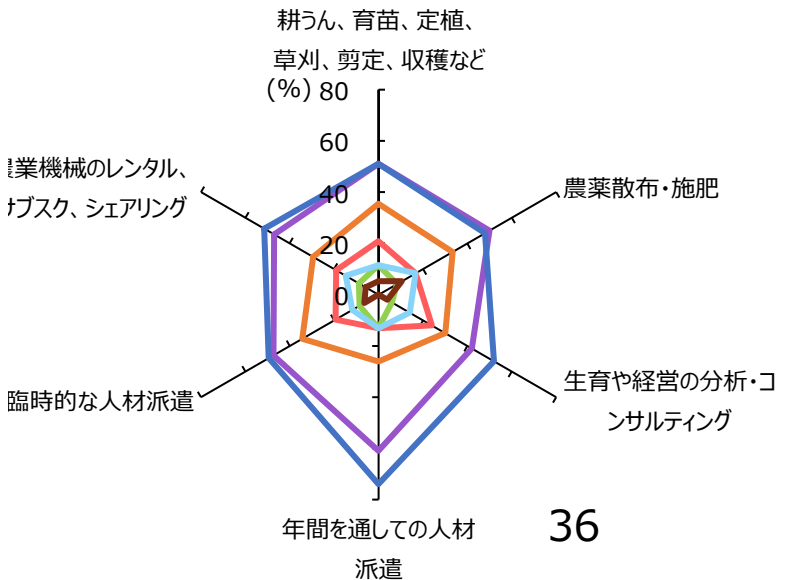
施設野菜



果樹



その他作物



4. アプローチ③（グループⅡの親和性の高いサービス）

■グループⅡにおける、現在利用しているサービスと、将来の利用意向のあるサービスの関係性は右図のとおり。

■全体的な傾向として、現在利用しているサービスを将来さらに利用拡大していきたいと答えた割合が高い。

■また、現在どのサービスを利用していても、将来の意向としては「耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など」、「臨時的人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」の将来の利用意向の割合が55%以上と高くなっている。

		問7（将来の利用意向）					
		耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など	農薬散布・施肥	生育や経営の分析・コンサルティング	年間を通しての人材派遣	臨時的人材派遣	農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング
問3 （現在の利用状況）	耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など（775人）	83.7%	47.5%	42.7%	14.7%	59.4%	55.6%
	農薬散布・施肥（589人）	64.3%	71.5%	41.8%	12.2%	55.2%	57.7%
	生育や経営の分析・コンサルティング（509人）	71.1%	51.5%	63.7%	13.9%	64.6%	63.5%
	年間を通しての人材派遣（121人）	82.6%	51.2%	62.0%	47.9%	70.2%	68.6%
	臨時的人材派遣（352人）	79.0%	49.4%	48.6%	13.5%	81.8%	58.0%
	農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング（403人）	77.2%	53.6%	56.1%	16.9%	67.0%	79.7%

※現在利用しているサービスの回答者を基準（母数）に、将来の利用意向があるサービス（分子）を百分率で計算した。両者とも複数回答のため、それぞれの項目の計は100%とならない。

4. アプローチ③（Ⅱの親和性の高いサービス）： 部門別

- ① 耕うん、育苗、定植、草刈、剪定、収穫など ② 農薬散布・施肥 ③ 生育や経営の分析・コンサルティング
- ④ 年間を通しての人材派遣 ⑤ 臨時的な人材派遣 ⑥ 農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング

【水田作】

		問 7（将来の利用意向）					
		①	②	③	④	⑤	⑥
問 3 （現在の利用状況）	①（337人）	81.0%	56.7%	41.8%	12.5%	50.4%	58.5%
	②（373人）	61.4%	74.3%	36.7%	8.8%	50.9%	53.4%
	③（216人）	67.6%	63.9%	60.6%	13.0%	57.4%	61.6%
	④（33人）	81.8%	72.7%	72.7%	36.4%	84.8%	84.8%
	⑤（125人）	77.6%	64.8%	56.8%	12.8%	80.8%	63.2%
	⑥（183人）	71.6%	61.7%	54.6%	16.4%	63.4%	78.7%

【畑作】

		問 7（将来の利用意向）					
		①	②	③	④	⑤	⑥
問 3 （現在の利用状況）	①（101人）	86.1%	49.5%	51.5%	9.9%	68.3%	67.3%
	②（63人）	73.0%	71.4%	50.8%	9.5%	69.8%	69.8%
	③（64人）	76.6%	54.7%	67.2%	9.4%	75.0%	78.1%
	④（9人）	88.9%	55.6%	66.7%	33.3%	88.9%	66.7%
	⑤（49人）	81.6%	46.9%	46.9%	12.2%	89.8%	73.5%
	⑥（64人）	82.8%	53.1%	59.4%	9.4%	70.3%	85.9%

【露地野菜】

		問 7（将来の利用意向）					
		①	②	③	④	⑤	⑥
問 3 （現在の利用状況）	①（96人）	85.4%	39.6%	46.9%	14.6%	68.8%	60.4%
	②（46人）	71.7%	63.0%	47.8%	26.1%	65.2%	67.4%
	③（60人）	80.0%	40.0%	65.0%	11.7%	73.3%	70.0%
	④（22人）	59.1%	40.9%	50.0%	54.5%	68.2%	59.1%
	⑤（53人）	81.1%	43.4%	49.1%	13.2%	83.0%	58.5%
	⑥（48人）	79.2%	52.1%	58.3%	10.4%	75.0%	93.8%

【施設野菜】

		問 7（将来の利用意向）					
		①	②	③	④	⑤	⑥
問 3 （現在の利用状況）	①（106人）	83.0%	44.3%	46.2%	24.5%	61.3%	49.1%
	②（56人）	62.5%	67.9%	57.1%	23.2%	48.2%	58.9%
	③（92人）	71.7%	40.2%	65.2%	22.8%	63.0%	53.3%
	④（35人）	94.3%	42.9%	65.7%	60.0%	57.1%	62.9%
	⑤（45人）	75.6%	40.0%	48.9%	22.2%	75.6%	51.1%
	⑥（59人）	83.1%	44.1%	62.7%	32.2%	66.1%	69.5%

【果樹】

		問 7（将来の利用意向）					
		①	②	③	④	⑤	⑥
問 3 （現在の利用状況）	①（93人）	89.2%	33.3%	32.3%	16.1%	73.1%	40.9%
	②（29人）	75.9%	65.5%	34.5%	13.8%	69.0%	58.6%
	③（47人）	70.2%	38.3%	61.7%	8.5%	74.5%	55.3%
	④（16人）	81.3%	31.3%	43.8%	43.8%	62.5%	56.3%
	⑤（62人）	79.0%	35.5%	32.3%	9.7%	79.0%	40.3%
	⑥（33人）	84.8%	39.4%	39.4%	15.2%	69.7%	66.7%

【その他作物】

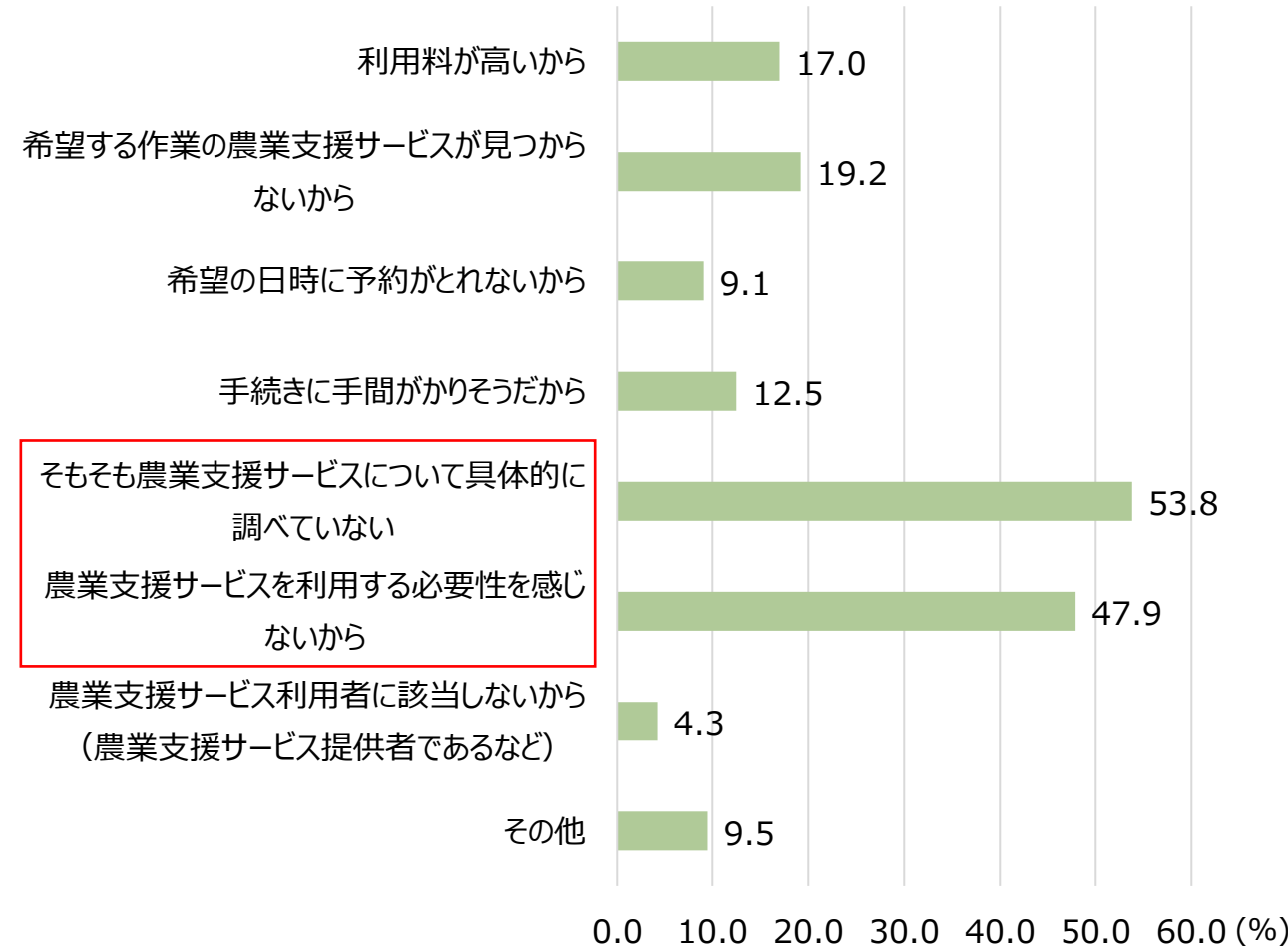
		問 7（将来の利用意向）					
		①	②	③	④	⑤	⑥
問 3 （現在の利用状況）	①（42人）	85.7%	26.2%	33.3%	16.7%	52.4%	42.9%
	②（22人）	63.6%	59.1%	59.1%	18.2%	63.6%	72.7%
	③（30人）	66.7%	33.3%	73.3%	16.7%	66.7%	76.7%
	④（6人）	100.0%	66.7%	66.7%	50.0%	66.7%	83.3%
	⑤（18人）	83.3%	38.9%	50.0%	22.2%	88.9%	55.6%
	⑥（16人）	75.0%	31.3%	62.5%	18.8%	68.8%	87.5%

※現在利用しているサービスの回答者を基準（母数）に、将来の利用意向があるサービス（分子）を百分率で計算した。両者とも複数回答のため、それぞれの項目の計は100%とならない。

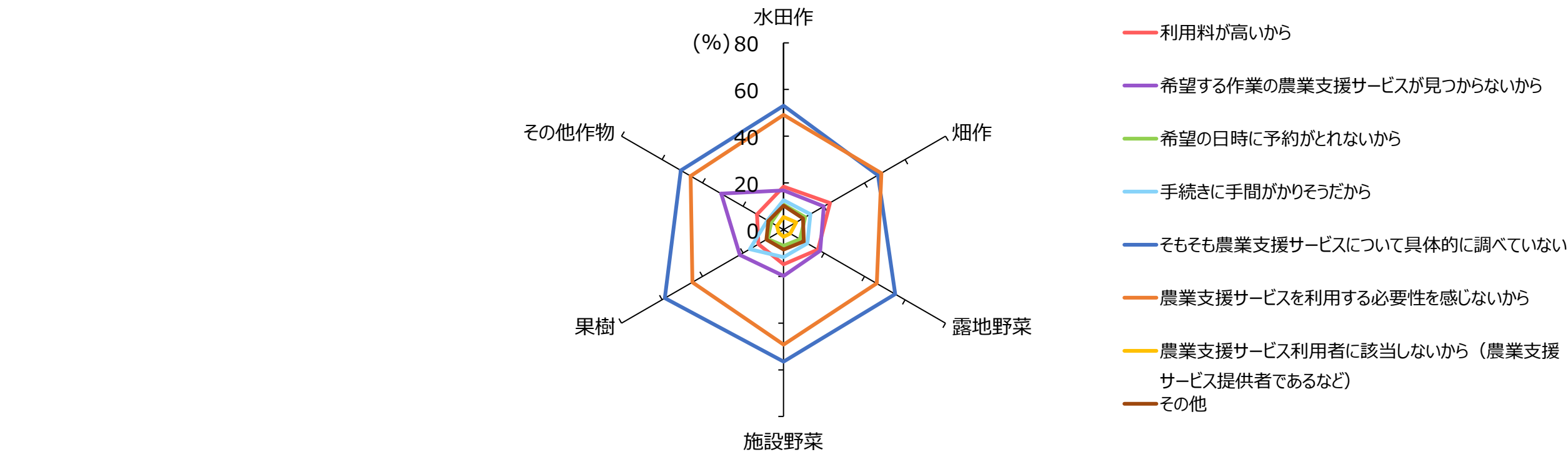
4. アプローチ④（グループⅣの利用課題）

■グループⅣにおける、農業支援サービスの利用意向がない主な理由は右図のとおり。

■「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と「農業支援サービスを利用する必要性を感じないから」が特に高く、他の理由よりも30ポイント以上高くなっている。



4. アプローチ④（Ⅳの利用課題）： 部門別



	水田作 (2593人)	畑作 (468人)	露地野菜 (757人)	施設野菜 (857人)	果樹 (645人)	その他作物 (412人)
利用料が高いから	18.4%	22.9%	17.0%	14.8%	12.4%	13.1%
希望する作業の農業支援サービスが見つからないから	16.8%	19.9%	18.1%	19.8%	21.6%	30.8%
希望の日時に予約がとれないから	10.7%	10.7%	8.1%	6.9%	7.9%	6.1%
手続きに手間がかかりそうだから	12.6%	13.2%	11.8%	11.8%	16.7%	8.0%
そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない	53.1%	46.6%	55.1%	56.5%	58.6%	50.7%
農業支援サービスを利用する必要性を感じないから	49.1%	48.3%	46.0%	49.2%	45.0%	45.9%
農業支援サービス利用者に該当しないから（農業支援サービス提供者であるなど）	5.4%	6.2%	3.3%	3.0%	2.5%	3.2%
その他	10.3%	9.6%	10.0%	8.5%	8.5%	7.5%

※各部門の回答者を基準（母数）に、利用意向のない主な理由（分子）を百分率で計算した。理由については複数回答のため、各部門の項目の計は100%とならない。

4. アプローチ（耕種まとめ）

	現在の 利用状況	将来の 利用意向	アプローチ
Ⅱ	△ (一部利用)	○	・現在利用されているサービスの更なる充実化（特に臨時的及び年間を通しての人材派遣サービスについてサービス内容の多様化） ・その他のサービスについてはサービスのパッケージ化や団体加入割引など利用料の低減に関する工夫 ・臨時的な人材派遣のサービスと農業機械のレンタル、サブスク、シェアリングについては、その他のサービスと併せてアピールを行えば、利用者のニーズを惹きつけられる可能性大
Ⅲ	×	○	・利用意向が利用開始につながるような、具体的なサービス内容の周知 ・年間を通じての人材派遣については、サービス内容の充実化
Ⅳ	×	×	・サービスの存在を認知してもらう機会の増加 ・まずは利用意向を持ってもらえるようなサービス使用のメリットを周知

5. まとめ

5. まとめ

- 今回の分析により、農業支援サービスの利用状況は、そのサービスの内容や利用者がどれだけサービスの利用意向があるか（サービス受容段階）により異なっていることが分かった。
- 今後農業支援サービスを普及させていくためには、利用者のニーズをきめ細やかに捉え、利用者のサービス受容段階に応じた適切なアプローチを行っていくことが重要である。
- 一般的に、商品やサービスは、市場に投入されてから浸透していくまで複数の段階を経ると言われており（プロダクトライフサイクル）、農業支援サービスにおいても同様に、マーケティング戦略を練った上で、認知度の向上、資金調達、競合他社との差別化などに取り組むための工夫を行っていく必要があると考えられる。